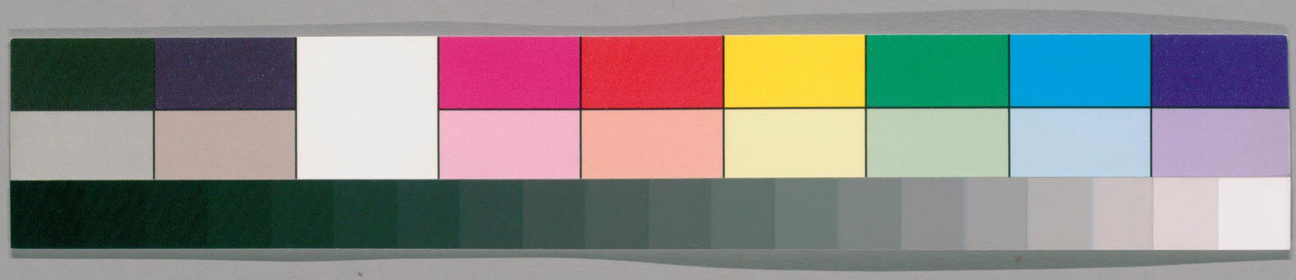
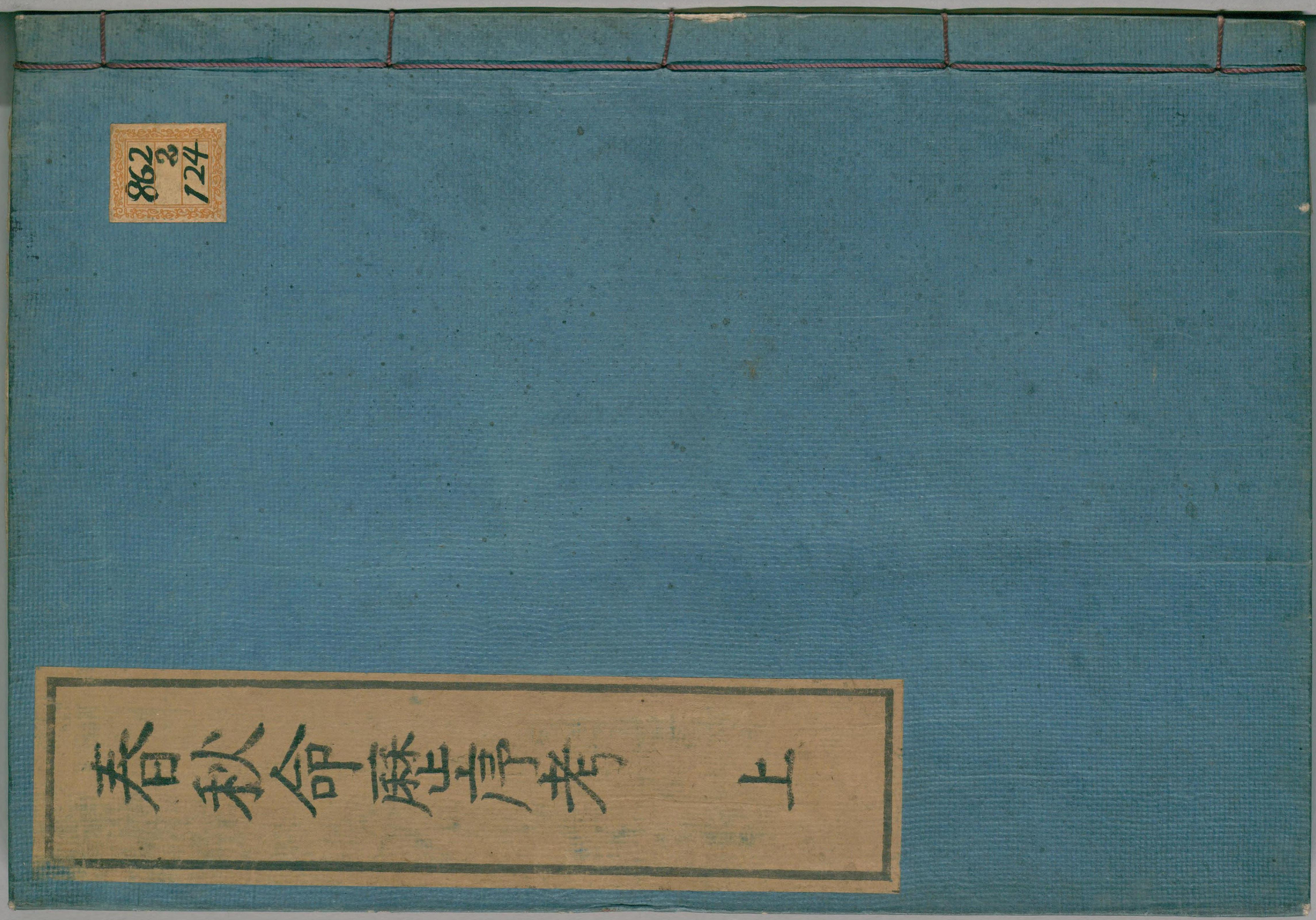





ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124

春秋命歷序考　上

シ印
二十六番

国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124

ガラス使用

# 春秋命歷序考

国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124

ガラス使用　挟み込み物

春秋命歷序考自敘

古人有言曰天地者生之本也
先祖者類之本也君師者治之
本也是大道之三本而
皇圖則万國之三本也是以彼西
我之蕃赤縣之別赤
我神眞萬之書房之師而開闢之

国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

春秋命歷序考自敘

古人有言曰天地者生之本也
先祖者類之本也君師者治之
本也是大道之三本而
皇圖則万國之三本也是以彼西
我之蕃赤縣之明赤
我神眞篇之青烏之師而開關之

国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

春秋命歴序考自敘

古人有言曰。天地者生之本也。先祖者類之本也君師者治之本也。是大道之三本。而皇國則万國之三本也。是以彼西戎之蕃。赤縣之州。亦我神眞爲之君。爲之師。而開闢之。

国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

含養之使蠢化蠕動始有倫理
穴居野處方有教養之國也是
故政刑兵陳律曆度量文字卜
筮醫藥凡所以經綸天下而百
世不可刊綱紀民用而一日不
可闕者亦皆
我神眞所授之道也上皇大一之
爲一也盤古眞王之爲二也三
皇之御三戈也五帝之紹五運
也可以見矣唐虞之世夏后之
時人質物朴猶能道此道教此
教焉夏后氏亾而大道斯廢擬
聖乃出殷篡周弒而六親不和
國家昏亂於是乎始有儒矣從



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

是以來。儒流之書日出。百氏之說益盛。視大道如異端。見神眞如物怪。以爲荒唐不經。非我所宗。其所以經綸天下。綱紀民用者。變爲覬覦之器。化爲虛僞之具。嗚呼天之未喪斯文也。

神典之所傳。玄經之所識。與古籍之明文。先聖之至言。雖遭歷代之災亂。似一縷之不斷。而尚幸有炳焉如日月。確乎不可拔者。

造次顚佖思之。而

神開我心。使我宗若夫儒流百氏。猶子孫而詈先祖。枝葉而惡本根也。豈足復知大道




国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

皇國之所以爲三本哉。然其起伏興廢。亦復非一。而其存于今者大抵有八家。曰神。曰玄。曰儒。曰佛。曰醫。曰兵。曰易。曰曆。雖然其在王公大人者非吾輩所能知也。唯至於卑賤如余者。自成一家。

則神家不知神道。玄家不知玄理。儒家不知儒旨。佛家不知佛意。醫家不知醫範。兵家不知兵機。易家不知易威。曆家不知曆式。而各游泳於一潦。未見驪龍之變化。彷徨於孤垤。未覩嵓之極天。夏蟲疑冰雪。井蛙怪江

湖。生於此國。而仕於此
君。而薨。此君。不知
神眞君師之德。開闢含養之恩。則
一也。故吾爲之恐懼。著述考徵。
既軼百部。且踰千卷。又近者著
太暤古曆傳。三曆由來記。古曆
日步式。月步式。弘仁歷運記考。

古史年歷編。古今日契曆夏殷
周年表。前漢歷志辨春秋曆本
術編。及此書。以明古曆之眞式
也。夫曆所以論天常。志長久也。
然泰古之世。年曆之數。紛紜不
一定。孟浪無講明其譌實起于
殷西伯姬昌矣。蓋既有流派矣。



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

不遡於原泉苟有年曆敢不推乎泰古且以余觀之何道不欲一定之誰人不願講明之而稍有識者輒有蛇足之過其不然歟者徒有蠡測之嘆抑人長而不知其年之經歷我身之長短雖曰不愚吾不信也吾爲之憤悱

獨採春秋命歷序祖述之憲章之訂正錯簡補綴脫文參伍之於明文於弘仁歷運記錯綜之於神眞所授之道實與至言方始明神典所傳之說乃似口胎之結符節之合也吾既同大澤於一歩

拯レ將ニ墜ニ於千仞一。於レ是乎。足レ以テ爲ニ
金鈴木舌一。而振ニ一中一振文教ヲ上矣。不レ然ラ。
與下不レ知ニ其ノ年之經歷一。我ガ身之長
短ヲ者上。莫ニ以テ異ニ焉一。方ニ今海内昇平。
文物鼎ニ新ス一。上ニ有レ撃壌之化一。下ニ有レ
鼓腹之樂一。博覽多通之戈。典故
考證之家。凡數十百人矣。然而

一ニ定之一。講ニ明之一者蓋或有レ之。我
未レ見レ之。則其ノ數十百人。亦猶一
凡庸ノ耳。復安得ニ論ニ天常一。志ニ長久一
者乎。雖レ然ト。人將レ曰ハ。其所ニ祖述
憲章一。亦惟爲レ識ニ緯之書一。其所訂
正補綴一。亦皆取ニ之乎臆斷一。余雅
謂士君子待ニ知己於千載一。豈求ニ



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

善價於今日哉。苟有奉
帝道唯一之學。學孜孜幽無敵之道
者。則將一目擊。而思過半矣。彼
凡庸之徒。雖提耳而曉之。不能
使之遂信之也。我惟宗我所宗。
亦豈求信乎不信之人哉。苟從
太暯作甲曆甲寅歲而來四千
八百四十年。
天保四年。歲在癸巳。孟冬九日庚
子。
太一在于中宮。天禽日。天禽時。
大壑　平篤胤自敘

# 春秋命歷序考上卷

大壑　平篤胤撰述　門人　武藏國　森田昌成
上野國　生田國秀　同校
武藏國　碧川好尚

春秋命歷序は。春秋の古記維書形るが。近頃舶來せる明人孫設が古微書といふ物ぉ。大抵をば全書れらむをも覽し記ぢ擧て。隋經籍志ぉ春秋緯十有三篇無ぃ所謂命歷序者ぉ。諸書徵ぃ引冥並歲代。帝王籙運顧多ぉ主ぃ于命歷ぉ。則欲推遂古之聞ぉ不得不列ぇ是書ぉ兵ぉ云爾ぉ。春秋緯十有三篇ぉ由來も。同書ぉ漢ぉ郗萌ぉ云しが。圖緯識雜占ぉの類ぉ集めて。五十篇ぉ為して。七經緯各自ぉ其篇部ぉ為ぉ而已ぉ。魏世ぉ宋均ぉ云ぃし人。始めて合集して。三十卷ぉ



国立国会図書館　タイトル『春秋命歷序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

得て。總名を春秋災異ていふ。而爰う緯と言ふを。始免春秋を主やし。諸書み徴引を曰ふ故れど。其詮次は先後よ至ては。茫やして辨ふ爲こを無し。梁ゟ文思。博く春秋緯を要りて。猶三十巻あり。今惟ふる。隋ゟ經籍志ゟ。十有三篇ゟ目あり。遠孔圖。元命苞。文耀鉤。運斗樞。感精符。合誠圖。考異郵。保乾圖。漢含孳。佐助期。握誠圖。潛潭巴。説題辞是れ。少を記せ爰が如し。此時ゟ緯書ぞも。今は全書一ッも傳はら爰。諸書ゟ徴引せる拠拾ひ集めて。同引用ふる事ゟ有る故ゟ。よ玆其由來を記ゟみむ。ゖて此命歷序。それ記者詳ゟら次。最末の條よ。魯哀公が十四年。謂もる獲麟歳ゟり。二百七十五年みして。漢ゟ起ゟ爰事ゟ云へ。後漢の歷志。和帝が永元十四年ゟ詔文よ。考靈曜。文あり。後漢の歷志。和帝が永元十四年ゟ詔文よ。考靈曜。命歷序。皆有甲寅元と云へ。ゟを始免。往〳〵引用しみをど。前漢ゟ世ゟ成れる物ゟるこゟ著く。其躰裁を案ふよ。此を甚古



く聞えし易歷と云ふ書。残本ゟ為し。他書ゟも採合せて記せ爰物ゟあむ有ゟ爰。斯て魏の宋均が注あり。後漢ゟ鄭玄。蜀ゟ誰周。晋ゟ皇甫謐。梁ゟ蕭吉らが書ゟも。往〳〵引用せる事あり。ゖて其易歷てふ書ゟ趣を。古徴書ゟ。洛書摘六辟ゟ残文を擧爰る中ゟ所見あり。其文ゟ。孔子曰。洛書摘六辟曰。建紀者歳也。成姬昌。有命在河。聖孔表雄。徳廣人受命。握麟。距宋ゟ羅泌が路史ゟ摘辟と引爰るは非ゟ。易歷曰。陽紀天別序聖人題錄興亡州土名號。姓輔爰符。亡殷者紂。黒期火戌。倉精受命。女正昌效紀承論以著當。孔子曰ゟり著當と云ゟぞ。易。乾鑿度徴ゟ作ど。受我授ゟ誤ど。次ゟ出て。鄭玄が注あど。其文ゟ距を。爰を爰ゟ作れど。次是氏没六皇出。天地命易以筭紀。宋均云次民氏没始ど。宀爰之世終ど也。六皇ゟ此ゟ下ゟ人數者也。辰放大頭四乳號曰。皇次屈出地教

国立国会図書館　タイトル『春秋命歷序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

辰放次屈之名也敦地名也賀六飛麟従二日月一飛獣有レ翼能飛者従二日月一謂循二其度一也治二百五十歳とあり。此を古徴書以上れ注なる者文れ鄭玄が注ゐ同じ。然れ共古徴書ゐ此文を何こにも書らざる出せるとを云ふこやを攷云げるも遺憾ぢり。今是を考ふ所ふ。孔子れ語ゐ。摘六辟ゐ引ゐ。其摘六辟ゐ易歴ニ曰ク也引ゐ。其古紀こやを知ゐざし。然れども。其識文中ゐ。殷紂王が事を云へ所ゐ更れり倉精受命也ハ。周文王攷云ふ語れもむ。殷盛世。周のゐ徴くゐ多頃ゐ。記せる書れる事は論ひ無し。有ゐて識緯の書類を。易理ゐ倚ゐ暦法ゐ因りて。後世ゐ必ず有ゐ事を。未然ゐ考ゐ知ゐ事を。專ゐ載せゐ物ゐゐが。中ゐは斯ゐ識も無紀ゐ非ゐ称ゐど。多くは秦漢れ世頃ゐ出し日者らが。其事れ既ゐ有れ後ゐ。其識文ゐ記しゐ。然れ識書ゐ託せゐが多くれゐ。慢ゐ信じ難紀物ゐハ有れど。此摘六辟及び易歴はしも。孔子ゐ倚ゐ引用し。鄭玄宋均等が注ゐ有れども古真識ゐ非ゐ疑ふくれむ。ゐて真贋あれゐ。其ゐ就て記く出せゐ古人れ履歴及び道紀の傳説れども。却ゐて経史れ類ゐ漏せゐ。故實れ真文其間ゐ錯在れむ。遂古れ學攷好まむ人。熟く擇ゐて取用ゐき物あり。然れ多く識緯れ漢ゐ世ゐ聞え高ゐる董仲舒鄭玄ゐど。攷次くゐ故実を蔵せゐ古説ゐ摭いて。經書攷ゐ解せゐ其説の真贋をも擇ばず。庶氏ゐ学風行はれて。緯書やし云ゐ事やありて。焙煬帝ゐ云へ所ゐ以來。漸くその全書の亡失せゐあゐ。古徴書れ諸書ゐ藏ゐる攷悪み。炬ゐ焚せゐゐが如し。然ゐゐ此序れ残欠れがらゐ如此存れ所ゐ文を喪さゐゑと云ふ物ゐ所ゐら。ゐて其易歴れ財裁ゐ思ふふ。此命歴序の第三章ゐゑ。第十四章ゐでゐ文。其古説ゐ残文れるばく許思ゐを。上ゐ摘六辟



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

引き文を合せ考ふるに天皇氏より黄帝に至る。十二辟は古傳説ゟ。易識を作るに合せし書なるが故ゟ。易歴と名けたと聞え。洛書摘六辟を。其十二辟の中なる。次是氏より次ゟ。辰放氏を云へるゟ。黄帝より六辟の傳を摘取りて。洛書も識を合せし書なる故ゟ。かゝる名けし物と聞ゆ。然るに上ゟ引き文を下せる五辟は欽ゐるなり。辟字を爾雅には見え。孫毅が訓ゟも。此蓋桃諸帝を。而尚ゟ于苑訓ゟ釈名ゟ。君也之代に。酈取其道徳を云者。靳于六君に云を言ふ。斯て今は命歴序も。其易歴を専ら取りて。天皇氏より次くゟ。命我受て王者を為る諸辟の。歴序を記せし故なりて。號けし書名を聞えなり。此を前ゟ其序ある故ゟ。かゝる云ゟを思ふなり。然るには非ざる。乃て如此考ふ定めて。章を逐ひて徴し辨ふ。ゟ黄帝以往は。太古ゟ年歴いや詳ゟして。諸史ゟ載せる古王者は世數。それ紛錯荒唐ゟ極りゟ雑説も。一切ゟ掃除せらるゝバ。今是一な挙りて其百を廃し。殊ゟ考究を要こそ。ゟ文の毎下ゟ述要が如し。然れど其を文義を注を要ゟ非ず。ゟ王者は世數年歴を論ふなり。但し是ゟ就て先論ふべき事の。其は古昔ゟ事實を。撰集せる書ゟ多かる中ゟ。司馬遷が史記は古けれど。黄帝ゟ。筆を起せるは。其以前ゟ傳記は雅馴あらば。迂怪ゟ説多ゟ。嫌ふりと聞えなり。其らし史記は自序ゟ担見え。五帝本紀は。自賛ゟ。学者多ゟ称五帝尚矣。然尚書獨載堯以来而百家言黄帝其文不雅馴。薦紳先生雅言之云ゟ。其文を採れる。竟以前は事の本説

天地人の三皇ぱ〻其餘の諸氏抔名ぢも。擧ㇾ㆓㆒ざる故ㇾ補史記と題せり。此人抔史遷が記ㇾ㆓㆒三皇ㇾ㆓㆒を初めの柢ㇾ㆓㆒。三皇已ㇾ㆓㆒教化之先。既ㇾ㆓㆒論古史ㇾ㆓㆒。不ㇾ㆓㆒合ㇾ㆓㆒全闕ㇾ㆓㆒近代皇甫謐作ㇾ㆓㆒帝王世紀ㇾ㆓㆒。徐整作ㇾ㆓㆒三五曆ㇾ㆓㆒。皆論ㇾ㆓㆒三皇已來事ㇾ㆓㆒。斯ㇾ㆓㆒亦近古之一證ㇾ㆓㆒。今並採而集ㇾ㆓㆒之ㇾ㆓㆒。然ㇾ㆓㆒三皇本紀ㇾ㆓㆒や云ㇾ㆓㆒風かて知ㇾ㆓㆒べし。然れや其撰びざ由は未ㇾ㆓㆒しく麁ㇾ㆓㆒き物抔ㇾ㆓㆒。此後ぬ北宋抔せう。司馬光が資治通鑑あもど。其を周平王ㇾ㆓㆒より記ㇾ㆓㆒して。其以往をむりし措ㇾ㆓㆒。爰ぬ劉恕が通鑑外紀。蘇轍が古史あぞ云ふ物あ。然風ぬ司馬光。それ外紀ㇾ㆓㆒ぅ驚ㇾ㆓㆒され抔や見えて。劉恕が死ㇾ㆓㆒る後ぬ。別ㇾ㆓㆒周以前抔事ㇾ㆓㆒ぬも撰ㇾ㆓㆒べて。稽古錄と云ふ書を著せり。劉恕ぢ司馬光が通鑑を物ㇾ㆓㆒ざる時ぬ。共ぬ撰者か加ㇾ㆓㆒ぬ人抔ぬ。中途ぬして死ㇾ㆓㆒り。外紀も其私ㇾ㆓㆒作ㇾ㆓㆒る書ぬり。按ぬ通鑑の撰も。司馬光惣裁して作ㇾ㆓㆒る故ぬ。劉恕が意ぬも任せざ事あ。し故ぬ。別



や所ㇾ㆓㆒思ㇾ㆓㆒る説の。諸書ㇾ㆓㆒ぅ散見ㇾ㆓㆒せ史記抔文ㇾ㆓㆒や合せ見ㇾ㆓㆒ぅ。其儒意ぬ合ざる譯ㇾ㆓㆒を。永經と考抔と見えて。多く者抔捨てぞ有ㇾ㆓㆒る。其ㇾ㆓㆒を別ぬ著せる書ㇾ㆓㆒ぅ。然ㇾ㆓㆒ぬ。然風ぬ三國抔時ぬ。蜀抔著ㇾ㆓㆒よ。をり〳〵論ㇾ㆓㆒らふをえて知ㇾ㆓㆒べし

る外紀を撰せるかもむ。しかて此三部ふれ伏義氏らを筆を起せるが。其撰ぶの麁な中よ。唯外紀ばかみ。盤古氏らり包犧氏までの世〳〵ぞも。自註ふ粗〳〵擧うんど。古史は更ぬり。譽古錄ふも。其大古ぬ世〳〵ぬ事實を取らず斯て譽古錄う。伏義之前。無不可知也。其有天皇地皇人皇有巢之類。雖於傳記有之。語多迂怪。事不經。見余不敢引。獨據周易自伏義以來敘之。ぞ云ぬを。此を例の偏見みて。元らり論ぎ為よ足ざれぞ。庖犧氏以前れ事ふも見えを。孔子も既う引用せり。其をし取ばしくは。謂ゆる帝あぜれ説を取ふ足らば。其を古ね緯書よりは。猶後れ物れもぞ。殊ふ司馬光。そぬ繫辭傳を周易や称せれど。此を周易ふ添こそそれ。繫辭と云ふ名さ当ら也。易れ末書ある伐。打任せて經と称して。採用せ為は。總て易のナ翼を。うれ孔子ぬ作と云ふ傳ふ為。漢以來の俗説ふ據れりや聞えて甚陋し。ばら其書名を譽古錄と號けしも。尚書う。若し帝堯。やうふ書出せ為。文字ふ據れりや聞ぬとぞ。緯書ぬ類ぶ皆ふれ伏義神農黄帝ぬ傳ふし古道を。此世限ぬふ頽廃せれど。實ふもなれる。終あり。然為此人信じて古へを好む心ぬ厚ねよ。覚えぞ。信ぞまじを説を信じさる過失を多く。中ふも丹壺記と云ふ物ふ。信用せ為過失は。殊う大れり。今此考へ物をて論ふ故は。ぬ風過失ハ有れぞ。よ為此書ばうを。博く妄曲ふ無く。其説ぬ史類を。今ぬ對攷う足ざれば非り。有こをけて此同



書ぬ類ある傳記を採らざれば。繫辭傳も更ぬを。二典三謨を取がふし然ろは。各〳〵其書ぬ発語う。若。譽古某云へ風を。後らり古へを追記せる物ふ為ふ論を無れぞれを然ふ為ふ司馬光。尚書と繫辭をがく一向ふ信ぜ為ふ。偏見ぬ非ら足や。其世よ碩儒と聞えし徒の。然ふ偏見ふ慨せ風を見えて。南宋ぬ世よ廬陵の羅泌ぞ云ひ〳〵し人。路史ぢふ物を撰述せり。是ぬ三目を留為き書みて。盤古氏らり次〳〵伏義神農黄帝ぬ世〳〵を經て。夏桀王ぬ世まで攷考證せを。彼國ふ傳ふし古道を。此世限ぬふ頽廃せれど。實ふもなれる終あり。然為此人信じて古へを好む心ぬ厚ねよ。覚えぞ。信ぞまじを説を信じさる過失を多く。中ふも丹壺記と云ふ物ふ。信用せ為過失は。殊う大れり。今此考へ物をて論ふ故は。ぬ風過失ハ有れぞ。よ為此書ばうを。博く妄曲ふ無く。其説ぬ史類を。今ぬ對攷う足ざれば非り。有こをけて此同



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

項よ新安朱熹と云ふ人から資治通鑑を増益して通鑑綱目と云ふを著し。其後明世に至りて。通鑑綱目前編れど有り。其は司馬光朱熹らが趣意を本として撰あれど。粗太古より事跡を載せり。同じ世を李純卿と云へるが草創せる世史類編あ。王世貞を始め。後に出る多の儒輩ども。己が向き〳〵訂補せる。綱鑑の類あり。史も數有り。然れど上代の事は。みな路史を抄錄して。其間に。他の傳説をも摭ひて。補ふ多の物なり。其綱鑑どもを視るに。後の撰者のおと。後の事ほ精けれど。古代の事ほ。次〳〵に失る説ども多し。然るが中に。古説を多く傳へて有は。古代の事実を其儘に取れいと。其由を云ば。路史を最あなれば。其書廣漠あれど。路史の古を



考證せる勞なり。此ゆゑに路史は。其功半ばは當るべき。さるに其よく區〳〵れる多が故ぞ。今一書ほ據りて。古昔の眞を察る。能は更ぞ是を以て古人撰史の法を効ひて。諸書を抜萃して。新に本文を作れ。我が所見を自注して。赤縣太古傳と號けり。蓋らは。先師の神典学ほ。木墓せる事は云ふも更なり。殊に老子の執古之道。御今之有。能知古始。是謂道紀。と云へる語をも。学則や。せる所業ほ。斯て其太古傳の。黄帝以往の年歴世數は。一向に此命歴序ほ。易歴の傳ほ據るもの。今殊に標して命歴の誕妄を辨じ。其易歴の錯乱をも。訂正せるは得有らじく成り。然れど此は太古傳の問題をも云ど



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

〔百八十ばかり先言むいて大君ぶ。
ちくる道の
あれを蒔ま。〕一

とや。見む人ぁ於其意を得て在ゐ。

自開闢至獲麟二百二十七萬六千歳。分為十紀。毎紀為二十六萬七千年。凡世七萬六百年。一曰九頭紀。二曰五龍紀。三曰攝提紀。四曰合雒紀。五曰連通紀。六曰序命紀。七曰循蜚紀。八曰因提紀。九曰禪通紀。十曰疏仡紀。

是第一條は。固ら足信られ思説あもぞ。世ぉ通説ぐ成うれバ黙止のあく。今其妄を辨ずむ。先開闢ぐは。天地初判の時ぞ云ふ。獲麟とハ。春秋魯哀公が十四年ぉ下ぶ。西狩獲麟とある年ぉ事ぢり。然あぉ開闢ぐ足其年まで。二百二十七萬六千歳ぁ云ぅ〳〵。人皇氏の世ぐ為る

九頭紀を。其一と為あるは何ぞや。然ぅは。人皇あぉ開闢ぉ初出ぢ〳〵むや。前ぉ天地二皇竝びて在り。尚其上ぅ盤古氏あり。下ぶ出る本文及び三五曆紀。始學篇ぢどぉ。實錄ぢ古傳ぉ歳數ぶ據ぢ。開闢ぉ足人皇氏まで。ぉか三萬六千歳あ足。然ぁ此ぉ措ぉて。人皇ぉ開闢の初發を係ふれを麁畧ぶ非ぢや。但し此を命歷序ぢ。其精年の數ぅそ各〳〵差ぁれ。曆人皇ぅり獲麟まで。ぉ引ぉ引ぉ引

年ゼロなる年は。疑なく世字を誤れるなり。下より引く三皇本紀も文かは。世と作るべし。仍て今改む。諸書ゐ。此類説多し。取捨あるべし。論はむ。先三皇本紀を考。春秋緯稱。自開闢至于獲麟。凡三百二十七萬六千歳。分為十紀。天地開闢。至春秋魯哀公十四年獲麟之歳。凡三百六万七千年。分為十紀。とあり。春秋緯ハ。此元命苞を云。歴序ゼ二書を合せて。凡世七萬六百世。三百二十七万六千歳の間ゐ王者の世数ゐ斯ばかり有けん由ゐ至。一曰九頭紀。二曰五龍紀。三曰摂提紀。四曰合雒紀。五曰。連通紀。六曰序命紀。七曰循蜚紀。八曰因提紀。九曰禅通紀。十曰疏仡紀。蓋疏仡當黄帝時。制九紀間。是以録於此。神紀之也と載し。文献通考ゐ。其説荒誕。故取ること無し。此説ゐ出して。古徴書ゐ。今ゐ本文の所ゐ。按博雅。天地辟設。人皇以来。至魯哀公十四年。積二百七十六萬歳。分為十紀。注云。帝王世紀。自人皇以来。迄魏咸熙二年。凡二百七十二代。積二百七十六萬七百四十五年。分為十紀ゼと云し。路史ゐ二百七十六万と云、数を。次ゐ挙る麟以前人皇までの年数ゐ引ざる。元命苞ゐ積年ゐ據れる。麟以後曹魏の元帝と云ヒまでの年数を。獲七十二代ゼ云、数を。人皇ゟ引く路史の。謂ゆる九頭紀ゐ。咸熙二年まで。百七十六万と云、数ゐ

春秋元命苞云。二百七十六萬歳。毎紀為一十七萬六千年。廣雅因之。均為誕妄。乾鑿度。全書。今傳はれるは此文なく。古微書に拾ひ收めある。元命苞も此文ありき。もと涌落多かりや有らむ。按禮含文嘉。推以上元為始。起十一月甲子朔旦冬至。日月五星俱起牽牛之初。是為曆本。故鄭玄云。上元者太素以來所求之年也。唐李淳風推自麟德元年甲子。上距上元甲子積紀二十六万九千八百八十載。而僧一行以大衍數推上元甲子積距閏元甲子。亦止得九千六百九十六萬一千七百有四十。是其日數也。然則太素以來之年。從可知矣。僧一行が推ぎ多積數を。即李淳風が推ある。二十六万九千八百八十載の日數ある曲あり。此二人が曆數の日數ある所あり。然れど此を合ばず。実數あを見て知るべし。夫一十九萬一千八百四十歳而及太素冥莖。此道之根本也。唯賾於曆數之理者能知之。乃ち云ふ。此説よる本史人皇氏の傳れ所も出せるが。其所なは二十九萬一千八百四十歳をあり。故に云ふ文を。一十六万七千年と。かく齟齬せるは何ぞや。然て共う推字あれど。此を誤字ありとして此節ある唯字をも。本の二々所も改めあり。乃て右諸説の紛々多る。其從來を如何ぞ考ふ。其原を殷西伯が妄意より出て。古傳ふ實數を一切もりく。後次くよ出し徒ら。古説を固く守るこそ能はざ。其實數を攻撃するもの能はず。其臆より取りて。尚種々に推法を立於よ。其術をもて。己う向く推定ふる數ある故う。かく區々れるあり。此妄數ありと西伯姫昌より起る事を。下巻よ妄曲よ論辨そるよ見て知るべし。然れど羅

泌が。右等の諸説を廃して。一九頭是為一姓紀。眞源賦云。人皇氏没。六十四氏興。而一一謂三皇者。乃合雒之三姓也。或作雒。又作洛。

略條列於右端と言ひて。一、九頭是為一姓紀。眞源賦云。人皇氏没。六十四氏興。而一一謂三皇者。乃合雒之三姓也。或作雒。又作洛。

○後小禮仲威儀を見れば。天運二十九万一千八百四十歳而反大素冥莫。蓋乃道之根也とつゐに然れば一十は二十の誤写あるらん。羅泌は是の数を信ぜしあるべし。

○十一

○

籙於五姓。知為九頭紀也。二、五龍是謂五姓紀。眞源云。五姓皇氏没。六十四氏興。是也。謂三皇者。乃合雒之三姓也。或作洛。又作雒。

籙於五姓。知為九頭紀也。二、五龍是謂五姓紀。眞源云。五姓皇氏没。六十四氏興。是也。謂三皇者。乃合雒之三姓也。或作洛。又作雒。

轉為熊倶非也。五、連通是謂六姓紀。或作連連。

轉為熊倶非也。五、連通是謂六姓紀。或作連連。

後付七十一姓者。摂提。合雒。連連。叙命之四紀。陶弘景云。上古有循飛紀。八、因提即十有三姓也。雒書云。三皇号九頭紀。次五帝号五龍紀。次摂提紀。次連連紀。次叙命紀。次因提紀。次禅通紀。次為合雒循飛傳之謬耳。九、禅通是謂十有八姓紀。

後付七十一姓者。摂提。合雒。連連。叙命之四紀。陶弘景云。上古有循飛紀。八、因提即十有三姓也。雒書云。三皇号九頭紀。次五帝号五龍紀。次摂提紀。次連連紀。次叙命紀。次因提紀。次禅通紀。次為合雒循飛傳之謬耳。九、禅通是謂十有八姓紀。

豈惟數千百載。三二十皇而已哉。而荘周之説。易姓而王。封泰

豈惟數千百載。三二十皇而已哉。而荘周之説。易姓而王。封泰

国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

山禪梁甫者。蓋七十有二代。其有形兆整堺者千八百餘所。然則宇宙之崇。握符登紀。為萬物之主者。可勝記耶。史記。此所(ノ)自注(ニ)鄭玄六藝論(ニ)云。遂人後歷(ニ)六紀九十一代(ヲ)至(テ)伏羲(ニ)始作(ス)十二言之教(ヲ)方叙機注(ニ)云。九頭一紀。五龍五。攝提七十二。合洽三。連連六。叙命四。凡九十有一。如(シ)鄭所(ノ)言。則十紀皆在(リ)遂人之後(ニ)而四紀又在(ニ)伏羲之後(ニ)非也。馬總之徒俱謂。十紀通百八十有七代。又云。伏羲前六後三。各立(ニ)年歲(一)亦惟耳據(ル)徐整等(ニ)禹皆不(レ)可(カラ)信(ヲ)也。本文注共(ニ)為(ス)文(ヲ)約(メ)て引(ケ)り。其も皆論ふ(ニ)足(ラ)ぱ(レ)ば訛傳俗説(ノ)もで那り。仍て其本史の據よ。丹壺記と称ふ物(ヲ)取(リ)て。予既(ニ)得(テ)丹壺名山之記。獲(テ)逢(フ)帝王之世。乃知(ル)天味(ハ)喪(サ)斯文(ヲ)也。丹壺書。初有(リ)盤古氏。天皇氏。地皇氏。九皇氏。而有(リ)鉅霊。句疆。譙明。泳光。鉤陳。黄神。狙神。犂霊。大騶。鬼騶。夸茲。泰逢。冉相。蓋盈。大敦。雲陽。巫常。泰壹。空桑。神民。倚帝。次民。是為(ス)



循蜚紀。有虞而無也。皇次四也。蜀山傞傀六也。渾敦七也。東戸十七也。皇覃七也。倉統三也。吉夷四也。九渠一也。狶韋四也。大巢二也。遂皇四也。庸成八也。凡六十有七也。是為因提紀。倉頡一也。柏皇二十也。中央四也。大庭五也。栗陸五也。麗連十一也。軒轅三也。赫胥一也。葛天四也。宗盧五也。祝融二也。昊英九也。有巢七也。朱襄三也。陰康二也。無懐六也。凡八十有八也。是為禪通紀。可謂備矣。此予之史篇所取瀕(ル)獻者也。言予。本書の文いやしくも倫(モガラ)ひ(ト)ど。其意を得ほぐく按(カモ)は(ル)ふ(ルト)ぞ。今迂異かして。初学め倫りど。其意を得ほぐく按(カモ)は(ル)ふ(ルト)ぞ。今は其文を取り直して引ふり。倘帝まで。十七氏の名を。抹(ヲ)泳光以次(テ)至(リ)次民氏(ニ)如(シ)下所叙(ブ)と云て畧せれぞ。見風(ヲ)便宜らむ事を思ふて。本史(ヲ)叙(ブ)る名を取りて出せり。本書と合せ見て。己が私れき事を察れなどし。今熟くお此謂ゆ丹壺記や云



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

ふ物を視あり。柏皇氏以下十五氏も。其世数うれ、信られ祢。六韜。荘子。遁甲開山圖れどを。採合せて載あみて。木據有りぞ。其神を筭十一條。柏皇氏より下ふ云ふを。僕も亦しかく三十六氏より世次を。全信ぬまでぞ。然ども此諸氏より中ふ。黄神。狙神。次民。皇次。皇覃より五氏のみ。是命歴序ふ歴叙より原易歴より。確手あ古説の王者ふて。人皇と柏皇とより間ふあ世次を。此五氏ふ止ふるぞ。下より本文より註を原如ふあが。其間ふ連祢ぞあ。三十一氏より名等は。諸書ふ某氏と出あを見原より隨せて採集め。ふ妄名我も差加えて。名山丹壷より至出ある。祕典ふ託して世を欺けあ。奸人の所為ふあこそ疑ひ無しぞは既より生民有けあより。其生民の蕃息次あより隨より。某氏や呼ふが常れば。諸書より某氏と云名より多く見ゆるを某氏やだふ有れど。証ひて王者ふりやを為て之を拾ひ。山海経を始め。地志より類ふある地名ふ依りて。其名どもふ設け。中ふは地名ふも依らで妄より作れりやを見ふあも沙うび。今其氏くより出。書ふ伝。委曲より云ふも。易より事ぞどもふ所狭き挙ふれを漏らず。其を異眼ぶらむ人。かく云ふを聞ば。忽より悟ふ色。ふき事ふあを。或は此ぞ。路史氏が杜撰や疑ふ倫等も有れむ。然れぞ其全書伝熟読次るふ。亦比類有ぬじを。古史学より篤志ふて在りしうば。決免て此人より所為より非ぞ他より祕惜ふ原より辛くして得りむが。固より信して古へを好む性ぶ非ばふ。太古より傳記の乏しく。知難ふを甚く索めて。探祢侘りあ間ふ。其記ぞ得て。覚えぞ欺のれし物あり。連識より人や云ずも。篤く其道を



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

好むを為ては、取はむしろ、然る歟なを受ぬこやも。節くあれ事ぬ至。吾が意れ小子ら能く用意をぞし。あれ此、丹壷記ふ類多き偽説を。古三墳と題せる書ぬ。太古者生民之始也。男女構精。以二女生一為レ姓。姓始、三頭謂之合雒紀。生子三世。合雒氏没子孫相傳。謂之叙命紀。通紀四姓。生子二世。是謂二連通紀一。生子一世。通紀五姓。是謂二五姓紀一。男女衆多。谷為二九頭一。谷有二居方一。故号居方氏。生子三十二世。強弱相迫。中有二神人一。提挺而治。故号提挺氏。生子三十五世。通紀七十二姓。故号通姓氏。有巣氏生。太古之先。天下九頭。咸帰有巣始君也。通姓氏之後也。遂人氏有巣子也。云ふ是ぬり。羅泌既く此説を論じて。大率此書雖二有所一取。然浅陋毎難レ据云ふ



言ふり。此、書は、序者宋の毛漸が筆叢、おく古今偽書考ぬも、胡應麟が偽作ぬりや云ふ。さる文ぬは、偽妄の殊ふ甚しくて、後人の思ひ寄ぬ非ぬ者ぬり。然ふ書中いや希ふ絶て用ひて、故実を徴せる事あり。偽ぬ非ぬり。抑右紀故ふ。路史ぬも往く書ものそ。一概ふ捨むも。思慮れ歟。号説とは。彼此共ふ其本を。後人の社撰妄誕ふ出る事故ふ。下ふ出ふ易歴ぬ古説やは。互ふ水炭相反らて。此を取らば。彼を捨ふく。彼を取ば此を捨ふく。両用をふじ記説れる歟。彼此共ふ。此命歴序ぬ載ある事も。然次がふ周代の始らめ。世ふ用ひ舊せる説ぬ故ふ。此をも姑ふ載し遺せと見ん。然れど予は其真を撰びふ。固く之を執ふ者ぬれば。次く出ふ彼古説を取りて。此紀号ぬ偽説をば。廃て次ふさ

かく右件の如し。淑人〻〻察てそれ眞を擇び祐へのし。

古昔。天地未分。混沌如雞子。盤古氏生其中。萬八千歲。天地開闢。清輕者上為天。濁重者下為地。盤古在其中。一日九變。神於天。聖於地。天日高一丈。地日厚一丈。盤古日長一丈。如此萬八千歲。天數極高。地數極深。盤古極長。數起於一。立於三。成於五。盛於七。處於九。盤古氏夫妻會易之始。陶鎔造化之生。天地萬物之祖也。盤古氏之後。乃有三皇。此天地人之始也。

此一條。元より今訂會歷序の出ゐ文おは非ず。彼國古學を為る人。誰も見知りて在らむ。先秦ゐ博士徐整が。三五曆紀の文ゐて。諸書お引ゐ文が。互ゐ文ゐ精畧あゐ



ゐ。博〻校合ゐて出せゐ所ゐ。然ゐは此文。もや疑ゐ。く易歷の古説ゐ如し。三五曆紀ゐ採りむが。後ゐ本書ゐ逸せゐ故ゐ。後世是ゐ文ゐ引くゐ。三五曆とゐ。引りむや所思ゐ〻ゐ。次節ゐ云ふが如く。ゐ此ゐ文無ては。歷數の本基立ゐれ。見む人異みを為こや勿れ。三五曆紀は諸書ゐ引ゐ文ゐ書を視。易歷ゐ古傳説ゐ始め。太古より傳はる古傳説ゐ。三皇五帝ゐ年曆を。紀せゐ書ゐれりしや。闕ゐ所を。彼臆斷ゐ推術説ゐ。於し消ゐれや有。り。む。僅ゐ此文ゐ。次節ゐ引く文ゐ。諸書ゐ引存れゐ。耳みて。其全書は傳はらび。諸書も書ゐれど。今は紀や有ゐ。或を三五曆記と。記ゐ。引〻り。然や號ゐ。用ゐ。説。卻ゐを。徐整長曆や

天地初立有天皇氏。十二頭。澹泊無所施為。而俗自化。木德王。歲



国立国会図書館　タイトル『春秋命歷序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

起摂提兄弟十二人。立各一萬八千歳地皇十一頭、火徳王。姓十一人興于熊耳龍門等山。亦各萬八千歳。人皇九頭。乗雲車駕六羽出谷口。兄弟九人。分長九州。各立城邑。凡一百五十世。合四萬五千六百年。

彼三皇本紀。庖犧氏。女媧氏。神農氏。各三皇之立名未詳。一説。三皇謂天皇地皇人皇。為三皇。既是開闢之初。君臣之始。圖緯所載不可全棄。故兼序之。云云。此本文之一字無差。は勿論記し出て。其自注了。出河圖及三五暦也と云云。然れど此れ本文を。河圖及び三五暦を採合せて。載せ。所説形名うや思ふ。然あは非ず。彼此共に易歴の古説なる故。彼も此も採載せるが。後次ぐ人が。文飾の語。後人が注文など混入して。右の如くは成れる形り。司馬貞が。帝歴序をば見ずしや見えて。其書中ゟ。それを引き。相似あるも。能く見れば。の傳。倫さも今れ本文や同けれども河圖及び三五暦を採れ。如くが書ゟ散見を。聚めて之を校せむ。項跋始學篇ゟ。天地立有天皇氏。十三頭。號曰天靈。治萬八千歳。以木徳王。地皇十二頭。治萬八千歳。興於熊耳龍門山。人皇九頭。各三千三百歳。依山川土地之勢。裁度為九州。各居其一方。因是而區別也と見元。始学篇の全書を今傳はらず。項跋と云ふ人の傳。詳ゟ引論る。校合して再引あり。古微書及び路史。ま。三五暦紀ゟ。溟涬始牙。濛鴻滋萌。歳起攝提。



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

元氣肇啓。有神靈人號天皇一人十三頭有神人一人十一頭。
號地皇人皇一人九頭。百五十六代。合四万五千六百年とあ
り。此文を。五行大義。初學記。路史注。事物紀原。說郛。其
餘の諸書あも引き。校合して引き為りり。今此等
好説を合せて。本文を攷ふるに。開闢天地初立の下ゐ。三五
暦ゐ依りて。溟涬始牙。濛鴻滋萌。歳起攝提。元氣肇啓。ぴて有為
十六字を補ふ為し。斯て澹泊無所施為而俗自化と云ふ十
字は。決めて後人の意を加へ文飾せし。其はかく揉み事も。
後の葛天氏。朱襄氏ぬどの世頃ゐあらざ。微妙な事ゐ云ゐ囃
をべ記事ぬ。三皇の世ゐ。中〳〵ゐ身ら記事ぬ。此を古
意を得為らむ人を。自ら知為き事あれば。委くは云は



ず。殊ら此皇の施為せ所の大抵為ちや。化俗ばう
ゐ記事ゐを非びうし。其を太古傳を視て知為ばし。
然れど此十字を去て。此間ゐ始學篇ゐ。號曰天靈人木德王
とあふ以。字ら上五字を補ふ為し。おは木抵四字ぬて文飾もば抔り。ま
た歳起攝提との為攝提の字。疑ふく後人の狡意ゐ改めしぬ
ら。其をゐ攝提ぬて。攝提格抔畧語抔為が。寅の異名ある
由ゐて。爾雅ゐ。此名ゐ云ばらば。干支の異名を皆載あもど。
元ら信られ也名等ぬ為ゐや。明ゐ張鼎思が説の如し。其説
を。琅邪代酔編よ。歳名。見于爾雅。郭璞曰。未詳。楊升菴謂。
簡閲之古。莫如典謨。其次易詩春秋。然尚書辛壬癸甲。易先甲
後庚。詩吉日庚午。朔日辛卯。春秋紀年昭然不紊。意當漢世術
家創為此名。藏用隠字。以神其術。而後人竄入爾雅。堯舜三代
恐無是称謂也。愚謂此等異名必起于周末。如攝提孟陬。已見
楚詞。兵陳氏世編。司馬貞索隠。昏牧于天皇氏之下。何天皇之

時即有此名。む謬。淮南子天文訓中。細解其義。惟以月令為主。支干配合而言亦雅又有月易月名。大抵歳名月名。雖不可解。而干支紀日。不紀歳月。則然耳。あらば後漢書曆志よ。二ケ所詩書可攷とそえそうり。然耳。おぐ。命歷序に有甲寅元也云爲多語有もじ。今本お其語見えざるも。攝提字を甲寅也有しらを。改爲文字れるおと疑無れぐ。此を甲寅の二字よ復をばよ然る星名あるよ混はしく。実よて甲寅おを當らばを。只うう字なむ事をれを思ひて。然る謂りまでを深く思はざるふちそ。然て。下お取總てえふ如く。

兄弟十二人立各一ゝ八字を。後ゝ捲文あれむ削去て。萬八千歳ゝ四字を存をばし。其を前條よは。二ケ所とも。唯う萬古文と聞もるをも思い合をばし。而て地皇ゝ所ふ。火德王一姓十一人也有爲多。後ゝ捲文ゝ有也云て。地人二皇う其德を云ぐ。り。の正實ゝる。然る我本文及び次條う。地皇を火德王也云ふ。を。五運相承ゝ事を思ゝ。後人の加筆れゝ。こそは太古傳ふ委く云ごとく。地皇やがて天皇氏ゝ婦妹ゝて。同時ゝ出興ふをも有れ。別ゝ在治せ。ふよ非ざれぐ。以承ゝ。と云ふ謂は無ゝ。や。例を云はば。伏羲氏も木德なりし。其婦妹ゝ爲女媧氏も同じ木德なりし。其を思ふべし。二條う論ふを。合せ考ゝて悟るべし。第十ゝ。ふ。按ぞ。五行大義ふ。第十一頭號地皇帝系譜云。地皇以火德王也有。是ふ依れも三五曆ふも。地皇の火德也云ふ事れ

く。帝系譜ㇾ。始めて云ひ出し語ありを。本文ㇾ取りて加へし也ㇾ。そは三五暦ㇾ。をし此ㇾ語有ㇾ。れむおは。斯ばの儲はりれ短文ㇾ。かく二ㇾ書は引はじ記物なや。儲はく五行大義ㇾ。春秋命歴序ㇾ曰。人皇九頭。宋均注ㇾ云。兄弟九人。洞紀ㇾ云。人皇分ㇾ治ㇾ九州ㇾ。古語、質故ㇾ以ㇾ頭數言之ㇾとあり。然れむ人皇の所ㇾ。兄弟九人ㇾ有ㇾ。も更ㇾり。地皇ㇾ一姓十一人ㇾ云ㇾ。天皇ㇾ兄弟十二人と有ㇾ。も。宋均が注を。後人ㇾ。もわざㇾ。本文ㇾ挽ㇾ入せ。おおやㇾ著明ㇾり。初学記ㇾ。始学篇ㇾ。人數ㇾ。皇十三頭と云ふ文を引くㇾ。洞冥記ㇾ云。一姓十三人也やありㇾ。是ㇾ。始学篇ㇾ。人數を云げりし故ㇾ。洞冥記を引くㇾ。而ㇾ地皇ㇾ。一姓十一人ㇾ。加へ。ありは。此ㇾ文ㇾ。効ㇾ。る。ぢし。儲ㇾ。ろ。此ㇾ。ら。れ字等を加へ。ざ。而故ㇾ。兄弟十二人。立ㇾ。各一万八千歳と。十二字ㇾ。句ㇾ。合ㇾ。せ。おく。地皇ㇾ。所ㇾ。も。兄弟ㇾ。亦各萬八千歳と句を為ㇾ。りむが。



兄弟ㇾ。二字を脱ㇾ。せしと見えㇾ。り。然れむ地皇ㇾ。所ㇾ。る。火徳王ㇾ。一姓十一人ㇾ。。。

天地二皇をバ。本紀ホ。天皇十二頭。地皇十一頭ヤ有ラヲを。三五暦ホ天皇十三頭地皇十一頭と見え。始學篇ホは。天皇十三頭。地皇十二頭とあり。此は孰ヲ正説ヤ云ふヲ。三ヤ云一ヤ有ラはは。皆古記誤字を承ケる歟を。其は水經注ホ。開山圖を引ヲて。天皇十二人。分テ五方ニ爲ル十二部ト云見えて。十二ヤ有ル歟が正數歟を。斯て地皇を其后ガ生ンだ。分身次ヤも。二皇必ス同數ナるべキ道理ワリまで。是も十二ヤ有ル歟ヲ正ヤ為ベし。然るに十一頭ヲ説ヲ取りて。它書皆然ル。獨リ春秋緯ニ言ル。天皇地皇人皇。皆九人分テ九州ニ長タリ。天下ヲ治ム。故ニ河圖括地象ニ云ル。天皇九翼蓋軒翼者九人。雨易通卦驗ニ云ル。天皇氏軒轅有ニ三ノ名ヲ注ニ云ル。三軒ハ公卿大夫ヤ。三軒九翼併テ皇ヲ是十三人ヤ云ル歟を。固ヨリ分身ヲ知ラヌで。云ル歟説あれど。論ふヲ足ラ祝ど。春秋緯と引あるは。係乾図ガ。古微書ホ出ある文を見あヲ。皆字あく。説郛ホ引ある文も。天皇。地皇。人皇。兄弟九人。分テ九州ニ長タリ天下ヲ治ムと有リて。兄弟九人ニこそは。人皇ホれ。ニ係リを。上れ二皇ホも係ル歟を。ケりて人皇ヲ所ル。乗雲車駕六羽ヲ。雒書ホ據ヲて。羅泌ガ。乗雲車駕六提羽ヤ改メ歟ル歟ホ従ふ歟し。本ノまヽくホては。句も合はバ。文義も通ぬ。祇車駕六羽ヤ

取扨て足ざる処上を。合四萬五千六百年と云ふ歳數は。取も
不足ぢる事は云ふも更也り。然れど凡字より下十四字。み
な削り去ぢし。路史の注に。三五暦に云。人皇百五十六代。合て四万
五千六百年。小司馬取之不足譬也と云ひ。一百五十世の歳數を云ふ。同
説此四万五千六百年を。謂也る一
説也。同史も引ふ処眞源賦に。人皇兄弟九人。四万五千六
百年とも云へり。然れども。今は本文を。三五暦まゝ眞源賦説
に依りて。後に書加へしおり。易歴は古文説にして。尚書旋璣鈐や云へ処
こを謬りあり。各〻三城邑や云ふより。以下は文説きは。古傳の本
色ありるぢく。けて此歳數の取扨も足ざる所ー思る
千歳も。取処も足ぢ扨ゝや云ふ。此は正しく紀古傳あて。諸
書も異説あり事ぢく。殊に歴年は。實數おも符合次処もや。
伏義氏の所ー云ふ如れば。人皇の所ー在る歳數の類ふ非



ー史。たゞ異説の如く聞也ば。路史ー引ける眞源賦ー。萬
八千餘年や云ひ。三皇經ー。二万八千歳と有扨耳ぢを
ど。二ー一ー誤写おも有べし。万八千餘年や云へ処も。共ー暦
元ー合さるを據るべ足らび。其を第十二條伏義の所ー云
ふを俟べし。但し其萬八千歳を。天皇氏ー萬八千歳。畢りて。地皇
氏ー萬八千歳を経ふる義ー扨は非ざ。路史ー引ける眞源賦ー。萬
及び帝系譜ー。天地二皇。俱ー萬八千歳と云扨如く。此は夫妻
おし有れど。二皇相禺びて。是歳數ー歴さ処義あり。然らば。
人皇氏ー歳數のみ。其古説は無うや言ふ。彼始學篇ー。人
皇九頭。各〻三千三百歳や云扨歳數上二皇ー歳數の。萬八千
歳ぢるー多少相應しり扨下ー謂ふ歴數おも叶ひて。荒唐
ぢら処を。是ぞ古傳ー實數ぢりと扨ふを。但し三千三百歳と云
ふを。古微書ー引さる。



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

文に依る事形るが。初学記を引るあを。三千の字を脱せり。路史を引るあるも。此の二字を脱せる所あり。誤りて其を正せり。勿思ひそ。

あや此條を論の結びも。次條を云ふを見るべし。

又曰天皇氏以木王。地皇以火紀。人皇出暘谷。分九河。依山川地土之勢。裁度為九州。謂之九圃。各居其一。而為之長。人皇居中州。以制八輔。

此條はあや疑あく。前條を一連の文形るが。本文舊注錯亂せるや。後人が他書抜入せ成形る物形り。かくて本書の三字あり。九圃の下あるべき。人皇氏の下あゆる。九圃の二字あり。そは共に衍形るこを著ぢりわざ。悟らで削去ば。いでや其由を。路史を。天皇より紀より至て十一字を。帝系譜云と引る。人皇出暘谷云くだりの文を。命歷序云を引あり。羅泌が見る本。もし今本の如くは。一連の文を二書に分りて。然を云べきや非ず。然れば此十一字を。其より後形る人が。帝系譜を取りて。加へし文形るこを明あり。地皇は火徳を云へるも。上の論る如く。帝系譜の誤り始まれる事形るを。思ひ合べし。故此の十一字を削去ば。又曰人皇出暘谷を形ざく。然ば此七字を本文を非ず。前條の。出谷口と云へるの下に在るし。當昔の小注形る。誤りて本文に連書せ形り。其を又曰と有るを。もと小字の文形りしこを分明あり。さて九河を云より以下は本文形るが。此字上の始学篇形る。人皇九頭各三千三百歳依山川土地

之勢。裁度為九州。各居其一方。因是而區別の文を併せ見るに。各居其一ヲ云ふ。互ひ文を出入こそ有れ共に古説の元文と知るべし。而字より下。十三字の文餘れり。故爰に路史を取至て攷ふるに。雒書云。人皇兄弟九人。分長九州。己居中州。以制八輔と云へる文あり。尤て路史の。雒書云を引くる。此文を見るに。多く洛書灵准聽と。今は其書傳はらず。然れども。詳に前條の兄弟九人。分長九州と云へるを更形り此條も。而字より以下の文は。此雒書に依りて。羅泌より後世の人の。作加へし文なる事明らけし。羅泌が見うる余歷序ども。もし此文有ましきにもあらず。既に云ふ如く。雒書をは引ぬ事多かり。其を羅泌が見むあを。其をたゞて

ま雑書靈准聽之撃う。不審ある事なり。珠ま適三辟と云し。此を摘六辟を誤れるならむ。

皇伯。皇仲。皇叔。皇季。皇也。五姓同期倶駕龍號曰五龍九龍紀時。有臣無官位尊卑之別。

次條う。人皇氏没狙神次之也云々文ま據れそ。是所う此五姓ゆ事の有ゐは。突出ま似ゐれど。此を由ある事れ是。其を遁甲開山圖ま。五龍、兄弟五人皆人面龍身。治在五方。五行神也や云へる如く。此は木火土金水ゆ。謂ゆる五帝ゐて。共う天皇氏の児子れるが。當昔共よ世ま在りて。造化ゆ首を作ゐまし城。三皇や共よ隠没して。其神靈を終う。天ゐを五星及



び大微ゆ。五帝座う留ゐり。地ゐを。五方ゆ大五岳ま止ゐるとと。太古傳ま委曲う説著せ風が如し。其を史記漢書ゆ天文志。甘石星經。孔子家語。水經注。五行大義。す。緯書ゆ類を取並ゐ見て明れる事れるが。説文の戊。字ま。戊。中宮也。象六甲五龍相拘絞也。や有風を注して。五龍者五行也。水經注引陶注曰。五龍。五行之龍也。許謂戊字之形象六甲五行相拘絞と云へ風説を。説文ゆ戊字之説あて悪のめれ。五龍を五行神ゆ意を得ゐ説れ是。然ゐ城。補史記う。自人皇已後。有五龍氏。按五龍氏。兄弟五人並乗龍上下。故曰五龍氏や載せゐ城始ゑ。諸史ま此を人皇氏ゆ次う在治せる。王者や為さ風も。甚し紀無譽ゆ所為れり。按ふま。司馬貞が此謬を。決めて。皇甫謐が帝王世紀ま。ろう載せる謬りを承ゐるあり。然るは帝王世紀を。全書を見ざれど。補史記を。大ゝ抵かゆ紀を取りて。作ゐる趣ゐ見ゆる城。皇甫謐が



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

此、余歴序をも見さる事を、世紀の文を諸書み引たる伎察て知るれども、司馬貞が余歴序を見さる趣を、其著書み見え祝ぬ。仍て九龍紀を有ゐる九字を、疑ふく五字を誤れゐる那り。然れども。五龍を王者み非ばれど。古く五龍紀を云ふ。紀號も有べき由れく。其世無き。有臣無官位尊卑之別。おど云ふ事も有べ那ず。然れど。九字より下十三字は。後人の挽入れ那もを疑ふし。削去て可ゐり。前ゐを龍の字は誤写ちて。九頭紀の時み。然有し伎云ふれ〳〵ぞ。おゐ其も人皇氏の世みは似那う史。路史の黄神氏の所を。賈公彦が云。九頭紀時。有臣無官。や云へゐ文有れど。此を賈公彦が意と改へゐゐみや有む。仍て次條も初那る。人皇氏没。狙神次之と云へる八字は。疑ゐ〳〵此條の結文ゐて。元書易歴ゐは。決へて。皇伯。皇仲。皇叔。皇季。皇少。五姓同期。俱駕龍。號曰五龍。人皇氏没。狙神次之」やぞ有けむ。然云ふ故へ。五龍を三皇より世を出て。共み造化も首を作ゐもど。別を世ゐ有て。原み非ざ那故み。此所み附記せ那文那もば那。



人皇氏没。狙神次之。出于長進。駕六螯半。政三百歳。五葉千五百歳。

此、條も首文八字は。上を云ふ如く。前條も結文那る伎。此も首文を失ひ那故み。此八字伎りて。首や為ゐ那こや疑れし。然らば其首文を。何み在けむや言ふ。下も條〳〵も文例を思ふ。惟み狙神氏出于長進やぞ在けむ。然て人皇氏没狙神次之やと云ゐが。前條も結文那る み進を て思ゐを。次條ゐる



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

黄神次之云云文は。もと狙神氏没黄神次之。と在りし文
なり。上四字誤失して。下四字を錯乱し残せる者なり。此をなお次條
の錯乱を訂し。脱を補ひ。文理を考訂されば。其古文を決めて。
〔狙神氏出于長淮駕六蜚生。政三百歳。狙神氏没黄神次之。五
葉千五百歳。〕とぞ在けむ。然て五葉とは。五末葉と云ふが如
く。次は黄神より柏皇まで五氏を。狙神は末葉より由あて。
其五氏は在治せる歴數。総て千五百歳の間ありけば義れ
も。此事委くは。第十二條にて路史より。彼丹壷記を因りて。人
皇氏を次とし。五龍氏を云ふ也とを立て。其次は循蜚紀にて。鉅
靈句彊。譙明。涿光。鉤陳。黄神。狙神也と叙あるを惑あり。斯て其



狙神は傳ん。此は本文なり。其は採れるが。間ゝ誤字數氏を
加へたり。〇人皇氏没狙神次之。とぞ云ふ文を存せるは何ぞや。若
實ら其間は。然ばら皇王者は有りむろは。人皇氏没して狙
神なれば次ぞは云ふ也ふ非ず。

黄神氏或曰黄袜。黄頭大腹。出天齊。政則有官紀。三百四十歳。狙
神次之。號曰黄神。一曰有人黄頭大腹出天斉。政三百四歳。黄神
次之。號曰皇神。出淮駕六蜚。年政三百歳。五葉千五百歳。神皇氏
駕六蜚龍化三百歳。

此條は。初句唯一行ぬ。黄神氏の本文おて。狙神と云ふ皇
以下は。前條。此條。次民神條。柏皇の條。総て四條殊錯亂衍文



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

ゐり。其を先一ヵ。狙神次之ゝ下ゝ四字は。前條ゟ。人皇氏没狙神
次之ゝ。を有ㇾ文ゟ衍ゐ里。二ヵ號曰黄神ゝ。の四字は。此ゝ黄神の
條ゟ。或曰黄祿ゝと有ㇾ。祿ゟ神ヵ誤りて。錯乱せㇾゐり。然ㇾ
泌此ゝ義を悟らゞ。狙神次之ゝ號曰黄神ゝゟ八字を。前條ゐる狙
神氏の。三百四十歳と有ㇾ。ゟ連書し。且ヵ衍狙神次之ゝと云
ふ文ゟ依りて。狙神氏を黄神氏の次ヵ出せるゝ。甚ㇾ。羅ヵ
り。而して號曰黄神ゝと云へ。ゐ文をも連書せれゞ。黄神と云ㇾ。
狙神ヵ異號と為ゐる。ヵ。其ゝ狙神ヵ衍ゐ子。此の本文を取りて。
黄神氏を出せるは。何をふ事ぞも。抑かゝゐ謬も。其自來を
ゐ所ゝ。は。彼ゝ毋壷記ゟ云ふ物ヵ。黄神狙神と
叙ゐる。偽妄ヵ惑ゟㇾ。故ゐ里ゝ。三ヵ。一曰ゝ。有人黄
頭大腹。出ㇾ天齊ゝ。ヵ十一字は。昴本條ゐ一説ヵて。有人ゟ云へ。
のみぞ異ゐる。四ゟ。政三百四歳の五字ゟ。次ゐる次民氏ヵ
文の錯乱ゐり。前ヵ。を。一曰ゝゟ云ふり。一連ゐり文ゐて。黄神
氏の政三百四十歳とゐㇾ。ヵ。の字ヵ脱て。錯

乱せㇾ。ゐり。ヵ思ゟしゝ。ゟ。熟く思ゟバ。
然らゞ。其は。ゐ次條ゟ云ふを。後ゐ。五ゟ。黄神次之ゝ。の
四字ゟ。前條ヵ。政三百歳ゟ云へ。ゟ。在りㇾ文ヵ錯乱ゐり。
此ゝ由ゟ既ゐ上ゟ云へ。ゟ。紀。六ゟ。號曰ゝ。皇神ゝの四字は。上ヵ錯文
ゐ。號曰ゝ黄神ゝゟ有ㇾ。ゟ。再誤ゐる衍文ゐ里。其ゝ。皇ゟ黄と
くも。黄帝を皇帝と作ゐ類ゐ。今數ふゐ。暇非ゟ。三皇を三
黄ゝと。ゐむ。七ヵ出。進駕六螭羊。政
三百歳。五葉千五百歳の十六字は。前條狙神ヵ文の錯乱ヵ
るゐゟ。言ふを更ゐり。八ゐ。神皇氏駕六螭龍化三百歳ゟ有
ㇾ神字を。柏字ヵ誤字ゐて。此ゝ十一字を。柏皇氏ヵ條ヵ錯乱
ゐ里。此ゝはゐヵ其ゝ條ヵ論ふゟ俟ゐ。羅泌此ゝ義を得悟らゞ。
る。神民氏ゟ云ゝゐの文ゐ。一曰ゝ。神皇氏。駕六螭。政三百歳
と記して。春秋命歴叙ゟ標せるは。実ヵ牽強証會とゐゝ。



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

黄神氏没次民次之」ゝそ在りむ。然て路史ふ。狙神ま。此黄神
ゟ次ま出せ風は謬り為こゟゝそ。既ふ辨ふ風如ゟあて。其次ゟ。犂
霊。大魄。鬼魄。倉玆。泰逢。冉相。蓋盈。大敦。雲陽。巫常。泰壹。空桑。神
民。倍帝ゝ云ふ。十四氏ゟ傳ゟ作ゟて。其次ゟ次民氏ゟ出せ
風ゟ。例ゟ丹壷の惑り。
次民氏是為次是氏次是氏没元皇出天地易命以地紀宂處之
世終矣。
此條ゟ缺文あり。其ゟ第六條ふ。五葉千五百歳ゝ有風ゟ。狙
神ゟ次ゟる。黄神ゟり柏皇ふ至風ふ。五葉ゟ歳ゟ総ゝ為數り
為こゝ。彼條ゟ云風如ゟまゞ。其五氏の歳數各ゝふ整はで



ゟて右ゟ錯乱衍文ゟまゞ如此ゝ訂し猶ほ足。然て立却り
て。初ゟ一行ゟ思ふゟ。或曰黄神ゝあ風或字は。下ゟ條ゝ
ゟ文例ゟ思ふふ。號ゟ誤れ為りり。然れど此ゟ。或字ふも。
出天齊ゝ有風ゟ。展放氏ゟ條ゟ。通えざ風事ゟ無きふ。
地名也ゟ云為ふ。相發して思ふば。是も地名ふて。出天齊政ゟ
ゝ熟せ風ふ非ず。政ゟ疑り。統三ゟ間ゟ在し字ゟ錯乱せ
風り。其ゟ上ふも下ふも。政幾百歳ゟ有風ゟ。相發して辨
ふ。羅泌こゟ義ゟ悟らびて。出天齊政ゝ改為ゟ事ゟり。斯て此條ふ。上ゟ
例ゟ據為ゟ。末ふ次民次之ゟゝ文有ゟて。其古文ゟ決めて。
黄神氏號曰黄袜。黄頭大腹。出天齊則有官統。政三百四十歳。

国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

は。有ゆるじき事ゆるお。黄神。辰放。離光。三氏の歳數は有れど。此條の次民と。第十一條より柏皇尓歳數あれが。甚く不審お。て恒お心安う〳〵び在りゆる。前より第七條を。右の如く考訂せしかど。柏皇氏の歳數は所知ざる所知ゆを。彼錯文どを。残悉く其條〳〵お配屬せる残を。視れむ。政三百四歳の五字より餘ほて。何處の錯文ぞも非ず。まゝ誤文ぞも見え祢ど。是若くは。次民氏より歳數の。錯乱ぶ非じりぞ思い得て。其五字を此條よ補ひて。其年數を推撿ゆよ。五葉千五百歳ぞ有ゆる。五十四年餘ほ。然ぞど。其を。五氏の在世しけ為大數の傳ぶあを。實を伏義氏の世ま



ぞ尓係ほ。盤古氏以來紀元前二百九十六年歳數。いぞ正整り符合せ為もぞ。第十二條尓記ゆ如くゆるゆは。最も不思議よ奇異ぬ事ぬ。抑も此ゆ上古の歷數ぬも。成童の頃より。疑お有ゆて。往しし文政十年の頃より。赤縣太古傳を著次と為ては。殊ぶ意を用ゐて。伏義以來の年歷を更ぶ。其以前の歳數も旦は思い得て在しうぞ。次民柏皇二氏の歳數を整ふゆるうぞ能はぬ。口惜ぬ事ぬ。二年八月の初免。忽然よ。古史のいて來て。物しり為時しも。神わが心を開なて。前條の錯乱お。其二氏の歳數をも。右の如く。訂正せむと思い付て考究せるよ。其を月立れ七日ぬぞ云ふ日ぬ。ぞから如く知り得てぞ有りゆる為

云より。以地紀と云ふて十四字を。初發り引ある摘六辟み。
易歷曰次是氏沒六皇出。天地余易以第絶也有ふと同文形
なが。宋均注り六皇此下人數者也也云ふは然ふ言ふて。是
より下ち。辰放離光。掬皇伏義。神農。黄帝ゟ六氏を指せり。然
れど。此ゟ本文と元皇と有ふ。六皇の誤写ル乎。路史ゟ今
ま。ゟ次民氏の傳を取ふて古紀誤字あて八有りり。九ふて路史ゟ
見ふ所大ふ。今擧る本文の如く。錯乱誤字も同じ。宋ゟ
也ゟ既ふ右ゟ如くふて在しり。其を大凡ゟ易歷ばふり。古
紀書は希れる上ふ。校意ふる後世の風俗ゟ。ふ。本文ゟ。易
を用られば。適ゟ散残れる故ふや有らむ。ふ。本文ゟ。易
命とふ。摘六辟ゟ。余易也あり。此を孰ふても有ル至し。
ふ。本文ふ。以地紀也有ふと。摘六辟ゟ。以第絶也あり。地



也ゟ第とは。古く同義ふ用ゐれど。是ゟ。孰ふても難無れど。
絶を誤写ル乎。紀を正也為ル。そは以地紀也ゟ天地易徐
は。天紀ふ當れ。草めて。紀草ふ。次民氏ゟ世頃ふ。
十二條ふ。太昊氏作暦の時ふ。天地紀ふ易れる義れふ。
思ふ合せて。人天易余也ふ事を論ふ。
辨ふ。ゟて如此く考へ定めて。其ゟ文を正次ゟ。易歷ゟ
古文を決めて。次民氏是為次。是氏。政三百四歳。次是氏沒六
皇出。天地易命以地紀穴處之世終矣。とそ有りむ。然て路史
ふ。此次民氏ゟ。残循蜚紀也為て。九二十二氏。六十餘世と
云ふ。謂ゆる毋壺ゟ惑ル。辰放氏是為皇次屈。宋均注云。辰放
皇次屈之名也。渠頭四乳。駕六蜚廉出地郭
宋均注云。後地名。而従日月上下天地。與神合謀。注云。後謂須度。古初之人弁服



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

蔽體。次民氏沒。展放氏作時多陰風乃教民撲木苞皮以禦風霜注云。苞蘊也苞蘊被其毛綯髮閉首以去靈雨而人從之命曰衣皮之人彼摘六辟。展放大頭四乳號曰皇次屈出地敦駕六飛麟從日月。治二百五十歳と有るも此條の畧文なり。今古本文を。微書も出せるは。其注を漏せり。今日摘六辟の文を取りて加へ。且て展放氏も歳を。路史より引ある文より注せを數多。摘六辟う。二百五十歳とあるは。二も三も誤写あて。次條ふ。帝展放。在位三百五十年。離光次之を。有るが正けれむ此を採め上れ文例ふ依りて。衣皮之人を云ふ下ふ政三百五十歳。展放氏沒離光次之とふ。十四字を補ふ。し易歴ふ古文は。定めて然さて在け。遺れるより。雲雨とある雲を決めて零ふ誤写。擁も疑あるく寧ふ俗



字かはをし所思る歟を。然て路史ふ。是展放氏を。因提紀ふ初やうて。離光氏ふて。間ふ。蜀山。氏涿傀渾沌。東戸。やうふ四氏を出せれど。例の丹壷ふ妄誕ありかし。

帝展放在位三百五十年。離光次之。號曰皇談鋭頭日角駕六鳳皇出地衡。治二百六十歳。

此條ふ。離光次之を云ふあて十四字を。前條ふ結文ふ。此ふ接續せめと見む。そは帝展放と云ひ。在位と云へ。前後ふ文う。政若干歳。おくる。然らば此條ふ治若干歳やうの文例う。違ふる。歳も思ふをし。然ふ首文を何ふ有りむやを云ふよ。是も前後ふ文例を思ふう。號字ふ上う。離光氏是ふ四字ありて。其古文ふて決めて離



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

光氏是號曰皇談。鋭頭。日角駕六鳳皇出地衡。治二百六十歲離光氏沒柏皇次之。ぞ有りむ。路史ぉ此を皇覃氏と作ゑるを。丹壺記ぉ依とし形り。然して本傳を。余歷序を取れる其文ぉ。鋭を兌。駕を格ぉ作り。六十を五十ぉ作るを。注ぉ余歷序云。次民氏沒。離光次之。號曰皇談。治二百五十歲ぞ有ぬを。信られ。然て路史ぉ。此次ぉ。啓統。吉夷。几蘧。猋章。有巢。遂人。庸成と云ふ。七氏の傳を作り出して。右曰提紀。凡六十有六世と云へ。ぬを又例ぇ丹壺ぉ據れゑ説あり。元より取ぬる足らず。

柏皇氏是爲皇伯。登出搏桑。日之陽。駕六龍而上下。以ぇ紀德。

此條ゑも落文あり。其を第七條れる。神皇氏駕六畢龍。化三百歲ぞ有ゐ神ぞ。柏字ぇ誤写ぁて。此條の錯文非ゑぢも。既ぇ



ぉ云へぬが如し。然て日之陽と云ふぞ。語を成さ次甚讀ぎう。記文非ゑを。熟ら考ぁゑ。河圖括地象ぇ。淮南子ぉ。世界の大九州の事を云へ文ぇ。正東陽州曰申土とあ里て。陽州と。扶桑州の事あり。然れど今文ぇ日を誤れ。州を落せ。ぁて。曰之陽州と有里ぇ注文の本文ぉ入りゑるあり。如此考ぇ定むれど。易歷の古文は決ぇて。柏皇氏是爲皇伯。登出搏桑。曰之陽州。駕六蟄龍而上下。以ぇ紀德。化三百歲。柏皇氏沒伏義次之。とぞ有けむ。路史ぇ本文ぉ。此文を採れゑる。登桑の二字を省けゑるを非れり。然て路史ぉ。禪通紀ぁぞ。是前ぇ史皇氏と云ふを出し。次ぉ柏皇。中皇。大庭。栗陸。畢連。軒轅。赫蘇。葛天。尊盧。祝誦。昊英。朱襄。陰康。

国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

無懐。有巣の十六氏を出くして。次。太昊紀を出せり。此は例
の丹壺記に據れる事ならん。因云ふ。諸書ゟ驪連赫胥祝融と有る
書ゐも。丹壺の好を信ぜしなり。史皇とは倉頡が事ゐて。此は黄帝の史臣
なるゆゑ。鳥迹篆を作れる人なるこそ。諸書ゟ所見ある如れ
る故。史皇を称ふ皇字ゟり証會して。王者ゟ列ゐ加ゑし物
那足。然ゐも羅泌是を信じて。其傳ゟ。河圖玉版の。倉頡為。
帝南巡狩登陽虚山臨于玄扈洛汭之水。霊亀負書丹甲青文。
以授之帝。文止二十八字。景刻于陽虚之石室ゃあ為。此文を路史ゟ
引ゐるや。古微書ゟ出せ
ゐをを校合して引ゐり。授字ゟり上を取り。倉頡為帝と句
して。帝謂倉頡とて。其證を為ゟ
最陋し。そは南巡狩と

尚書中候ゟ黄帝
巡洛龜書赤文成
字以授軒轅まゝ

云ゟり以下。珱熟く見ゐゟ。春秋演孔圖ゟ。黄帝坐玄扈洛水
上。與大司馬容光等臨観。鳳皇銜圖置黄帝前。再拝受圖。宋均
注。玄扈石室名也。と有ゐゟ類説ゐて。黄帝ゟは即黄帝ゐて。倉
頡は疑ゐく為帝ゟ間ゟ脱文ある。元禽芭及演孔圖叙帝王之相
頡ゟく思こゟ著明ゐり。ゟゝ元禽芭及演孔圖叙帝王之相
文を引て。ゟ及ニ人臣一也。倉頡既ニ王ゟ
餘の人臣ゟは偶然ゟ事ゟこそ云ゐれど。演孔圖の列ゟ。
ゐゐも人臣の右稷も入ゐれむ。此を證ゟ為ゟうゑ
楊升菴外集ゟ。羅泌路史ゟ以。軒轅与黄帝非是一帝。史皇与蒼
頡乃一君一臣。蓋洪荒之世存之而論可也と云ゐて。其辨ゐ已ゟ何ぞやと
五氏ゟ次序は。既ゟも云ゐ如く本據あり。其は六龐ゟ。昔柏
皇氏。栗陸氏。驪連氏。軒轅氏。赫胥氏。尊盧氏。祝融氏。此古へ之王



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

者也。未使民民化。未嘗民民勸。此皆古之善為政者也。至於伏羲氏。神農氏。教化而不誅。見。此文今本脱。今以平津館叢書本出。六韜逸文を引。莊子胠篋篇。昔者容成氏。大庭氏。伯皇氏。中央氏。栗陸氏。驪畜氏。軒轅氏。赫胥氏。尊盧氏。渾沌氏。祝融氏。伏戲氏。神農氏。當是時也。民結繩而用之。甘其食。美其服。安其居。樂其俗。鄰國相望。雞狗之音相聞。民至老死不相往來。是之謂至治。

管仲曰。古者封泰山禪梁父者。七十二家。而夷吾所記者十有二焉。昔無懷氏封泰山禪云云。慮羲氏封泰山禪云云。神農氏



封泰山禪云云。有脱文。據列子湯問篇。泰山云云。山名。成王を出す。七十二家。是より次く。災帝。黄帝。顓頊。帝嚳。堯。舜。禹。湯。周。周中。無懷氏より周成王。十二王。封禪を記す。文。脱。無懷以前。六十家。名を記えず。と云へり。此を管子封禪篇。文。今本。此篇を缺。ども。後人史記より取りて補ふ。ゆえ。然れ。封禪書。注子。無懷氏。古之王者。在伏羲前。見莊子。と有り。莊子。此氏。名。上。引出。如し。彼。補史記。も。右。諸書及。帝王世紀。據。見えて。自人皇已後。有五龍氏。遂人氏。大庭氏。柏皇氏。中央氏。卷須氏。栗陸氏。驪連氏。赫胥氏。尊盧氏。渾沌氏。昊英氏。有巢氏。朱襄氏。葛天氏。陰康氏。無懷氏。斯蓋三皇已來。有天下者之號。而韓詩以為。自古封太山禪梁甫者。萬有餘家。

国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

仲尼観之不能盡識云々記して。其自注に。皇甫謐以為大庭氏已下。皆襲伏羲之號。難可依従。按古封太山者。首有無懐氏。乃在太昊氏之前。豈得如謐所説と云ふ。皇甫謐が所説と云ふは。即ち世紀に曰。女媧氏没。次有大庭氏。柏皇氏。中央氏。栗陸氏。驪連氏。赫胥氏。尊盧氏。混沌氏。有巣氏。朱襄氏。葛天氏。陰康氏。無懐氏。凡十五世皆襲庖犧之號。也有ふ。十五世と云ふ。是を取るなり。庖犧女媧も。皆太昊氏の後ふ在り。諸氏も。太昊氏以下の名及び其次序も。世紀を為さゞる故ふ。巻須氏と云ふ名を。開山図ふ所見えざれど。巻須氏と云ふ名を。前後引出る書毎ふも。出ざる名なるを。何ふ據りて此を加へしか。心得ざる事なり。然るを皇甫謐が。太庭氏以下伏羲より後也と云ふ説も。本據ある事なり。其は遁甲開山圖ふ。女媧氏没。大庭氏王有天下。次有柏皇氏。中央氏。栗陸氏。驪連氏。赫胥氏。尊盧氏。祝融氏。混沌氏。昊英氏。有巣氏。葛天氏。陰康氏。朱襄氏。無懐氏。凡十五代。皆襲庖犧之號。也有ふ。是を有ふ據ふ。遁甲開山図ふ引たる文は。説郛ふ引る文に。此文は。全書を今傳はらず。説郛ふ引る文に再引たる文ふ。漢書藝文志ふ古今人表ふ。庖犧氏の後。神農氏の前ふ。女媧氏。共工氏。容成氏。大庭氏。柏皇氏。中央氏。栗陸氏。驪連氏。赫胥氏。尊盧氏。渾沌氏。昊英氏。有巣氏。葛天氏。陰康氏。朱襄氏。無懐氏。東嶳氏。帝鴻氏も。有ふ。開山図の説成。再錯りふる説と見ゆるを。論ずるに及ばず。然らば此等れ諸氏ふ。伏羲氏ふ前と云ふ。後也と云ふ。兩説ふ中ふ。孰ふ正説ふ歟と言ふに。右諸書ふ中ふ。有巣氏とは。庖犧氏とは。尊盧氏とは。神農氏の號。軒轅氏とは。黄帝也と伏羲氏ふ異號。大庭氏とは。神農氏ふ異號。燧人氏ふ異號ふ歟を。各〻別氏ふ傳ふ訛ふ。然ふ歟を。路史ふ。ここ

軒轅氏など。庶放。伏羲。神農。黄帝とは。別れる氏くやを為て。俗説訛傳など多く聚りて。附會ひ説を成あはを。彼謂ゆはゆ母壷記ゑ。惑ふる故ひ非事ありも。然れど。右ひ四氏を除なて。其餘ひ諸氏は。王者ゐ非ず。柏皇氏ひ當昔より。次くま其號を襲紀称ひ為。諸侯ひ類ひる者ゐて。伏羲の世を更ひり。其後ゐも名ひ聞えし故ひ。六韜。莊子。管子。開山図。史記。世紀を始為。其餘の諸言ゐも。伏羲ひ前ともを言ゑう孤皆王者と後ともを言ゑう孤皆王者と巧ゐ。思ひ訛ひ為物ありて。天皇氏以降。黄帝以往ひ間ひ。此諸氏らひ王位ひ居べ紀世ひ無ともを。上下ゐ論ゐ如ひ孔もど。右ひ訛説ぞそは。一切ゐ掃除し畢為き事ゐおそ。然れど右ひ諸氏ら。實ゑ。其世くゑ。諸侯ともを在ひはゐ事は違ゑ無れど。ゐあ此外ゐも。諸書らり拾云出てゑ。太古傳ゐ説著せる孤見はべし。

古て補史記ひ引為為韓詩外傳ゐ。萬有餘家ひ王者ひ。在ひ陳趣ゑ謂ゐるを。例ひ荒唐。固ひり論ぬひ足らど。管子ひ七十二家と有為を。此書管仲が自記ゐ非ざはゐ上ひ。おを百ゑ足らど。五十ゑ多く餘る孤云ふ。大數ひ常語ゐて。實數ひらゐ孤ど。本據をは為難りれど。吾所記者。十有二をは。吐く譽ふ所ゐ記ゐ非ど。縦て封禪ひ。草命ひ王者ごやゐ。必ず行ふ事ひ如く聞ゆれども。然も非ぢしを聞えて。此十有二中ゐ。周。武王れ名ひくて。成王ひ名ひり。ゑ。必ず虫冥氏あ為ひまゑ其名れ。ゐ。ゐ。炎帝と有為を。是神農の未く。神農の名ひあ為が上ひり。ゐ。ゐ

（孝經援神契ニ封于泰山ト考績燔ヒ禪于梁父ニ刻石紀號ヲ示ニ典功ヲト見エ）

思ふ。此は疑ひ同氏ゟ異號と成ゟ。然ゟも柏皇氏も。伏羲氏ゟ隱沒せ給後ゟて在世ゟて其功業ゟ佐けし趣ゟ思ひ。是ゟ始めて。封禪の名を傳りむ。所思ひ。其は封禪もれば。必山石ゟ其名を彫著ル事ゟ給ゟ。柏皇氏ゟ。無懷氏ゟ名有ゟなゟ以て。知り辨ふ。し。此は既く路史叙ニ曰。伏羲氏王ニ天下ニ。造ニ書契ヲ一。以則書契之興。出ニ於羲氏ニ一。有ニ不ニ疑者ニ一。無懷氏固ニ己封ニ泰山ニ一。昭ニ姓紀號ヲ一。揺之山名。其書略ニ已見ニ於扈律ニ一。則是伏羲之有ニ書契ニ一。為ニ不ニ近也ニ一。曷得ニ謂至ニ黄帝ニ一始有ニ書契ヲ一云ヘ給ゟ如し。然ゟ。其七十二家と傳ゟしも。固ゟ古紀妄誕ゟて。寃吾ゟ記えし十有二家ゟ。元ゟ諦しき。封禪ゟ正數ゟるゟき。然ゟては。遁甲開山圖ゟ依りて。彼十五氏の中ゟ。柏皇無懷ゟ二名ゟ出せる。世紀。補史記。及ゟ此ノ二書ゟ名叙ゟ従ゟ。諸史編年ゟ類ゟ給書等。みれ考證ゟ備ゟ麁漏ゟ有ル給。まゝ此ゟ就て按ゟバ。六龍莊子。金樓子ゟどゟ。柏皇ありて無懷氏ゟ。ゟる事ゟ知りて。省ける傳ゟも有ゟ。し。ゟて天皇氏ゟ始ゟて。木德と称して。其ゟゟり次ゝ。離光氏ゟ至ゟ。ゟ。其德ゟ称せ。柏皇氏ゟ至ゟて。摶桑ゟり登出せりゟ云ゟ。以て木紀德と云ゟ給ゟ是ゟ准ゟて。天皇氏ゟ本居ゟ摶桑ゟ。其州ゟり彼處ゟ渡れ給故ゟ。木德ゟ称せ。ゟ。義ゟ著せ給ゟ。斯て地皇氏の下ゟ興て熊耳龍門等ノ山ゟ有ゟ。扶桑ゟり渡りて。其山等ゟ出興せ。ゟ由ゟり。ゟゝ人皇氏ゟ。暘谷ゟり出給ゟ。其谷ゟ有給。其谷ゟ扶桑の地ゟ在り。そは山海東



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

荒經。及ゞ云淮南子地形訓抔ゞ
抔秦宓傳ゥ。三皇乘祇車出谷口ョリと云ふ傳も
を蜀國の斜谷と云ふ。谷ゐ事也為ゝる説有ゐを。非言抔ゥ
こゝを。其注ゥ魏畧を引きて論へ曰が如しゐ。天皇氏を。無
外之山ゟりゝ出ゝゟりゝそふ説あゥ。鄭玄説ゥ。無外ノ山。在ニ崑崙之
東南也ゝ云ゝ。ゥ崑崙は河図括地象ゥ。北極直下ゐ在りと云ゝふ
山ゐり。是ゟ依りて其無外ノ山の方位を思ふゥ。是を扶桑域
内ゐ山名抔ゐこゝを。勿然うり。此等の事ぞも既ゥ太古傳と。
扶桑国考ゝふ。委曲ゟ考證せゐむ。今更ゥ云ふ抔ゥ。
ゐ委くゐ云ゞ。唯其大畧を云ゐ。ゥて三皇ゝ柏皇と
ゐ。搏桑暘谷の域ゟり。出ゐ由ゟ顕はゝて。其中間抔ゥ。狙
神等ゐ五氏ゐ。其徳ゟ称せゥ。前後ゥ両氏ゐ准ゥて。共
ゟ木徳ある義を令知ゝゐ物抔ゥ。然ゐ。或は出ニ長淮ニ。ゝ云
ゐ。或を出ニ天齊ニ。或は出ニ地郭ニゐ。ゝ云ゐも。扶桑州ゟり渡りて。

然る所ゝゐ出興せゐ義あゥ。こゝを著し。ゝは六鳳皇ゐ乗ゐ
と言ゐ。六飛龍ゥ駕次ゝ云ゐ。ゐ。ゟ出興せゐ趣ゥ聞ゐゐ。思ゐ合せ。ゥて狙神の條ゐ。黄神
ゟり柏皇ゐで抔。五葉ゝ云ゐ。子孫の義抔ゐ。最末抔ゥ
柏皇氏を。搏桑ゟ出ゝ云ゐれゞ抔。平心ゥ思ゐ合せて。其父
祖抔本居抔も暁ゥ辨ふゐき抔ゐ。斯ゥても仍旧習を存しゝて。
お。ゝ古傳を見て。其宿滞ゐ洗い去ゐし。ゥて右抔如ゝ諸氏抔條ゝ抔按正し
終ゥて後ゥ。往古の年歴ゐ推考ふ抔ゥ。其開闢抔歳やゞて
盤古氏抔元年ゐて。尚書中候ゥ。天地開闢。甲子冬至ゝ見え。
易緯乾鑿度ゟ。日。甲子歳甲寅ゝ有抔も。開闢抔暦元ゝ云抔



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

語あもなむ。是元年甲寅より算を起して。其一世一万八千歳を推歩を厥み。三百甲寅下りて。其末年を癸丑に作り。但し閒歴を論ふ。太昊の時より創めて制也。干支を以て云ふ事も。何ぞや思ふも有をもとど。此を語ふ常の例ふ。斯て天地二皇は元年も。右癸丑歳の次年甲寅ふ當もな。其偶世一万八千歳も。三百甲寅は閒ふて癸丑ふ終る。次ふ人皇氏の一世三千三百歳も。其元年癸甲寅に作もな。五十五甲寅下りを登元年陥ふ甲寅ふて。其一世三百歳も。五甲寅下りて癸丑ふ終もり。既ふ上より引ある後漢の歴志の文ふ。余歴序に有甲寅元と云へ陥も。天皇氏の條ふ歳起摂提に有陥文の事に作もな。此歳ふり人皇以下の元年陥。順推を陥を言ふも更り。盤古氏の元年を逆推を為も過ふじ甲寅ふて。其歳首



癸甲子冬至の日に作るを。ふ〳〵其日より次〳〵ふ。六十甲子を以て除い下もな。天皇氏元年の歳首。又ふ人皇氏元年の歳首。やもふ甲子冬至ふ當る。狂神氏元年の歳首を。亡而冬至の日ふ當もり。仍て其次黄神氏の元年も甲寅ふもこそ。其一世を三百四十歳作もな。五甲寅や四十年ふて癸巳ふ終り。次に作る次民氏の元年を甲午に作るが。一世三百四歳ふもな。五甲午や四年ふて丁酉ふ終る。其次辰放氏の元年は戊戌に陥が。其一世三百五十歳も。五戊戌や五十年ふて丁亥ふ終り。次に作る離光氏の元年を戊子ふて。一世二百六十歳作もな。四戊子を二十年ふて丁未ふ終るが。其一世三百歳を五戊申ふて。丁未ふ終もり。其次柏皇氏の元年は戊申に作るが。其一世三百歳を五戊申ふて。己未ふ終もり。かゝて黄神氏元年の歳首冬至を甲子。次民氏元年の歳首冬至を己酉。辰



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

放氏元年甲歳首冬至乙酉。離光氏元年の歳首冬至は丁未なで當たりる。あろ
乙壬戌。柏皇氏元年の歳首冬至は丁未なで當たりる。あろ
此、柏皇氏の年歴と。太昊氏の年歴とも。聯續せ為年時の議
も。次條ゟ論ふ俟為し。

伏羲遂人。始名物。蟲鳥獸。

孫瑴此所ゟ注して。按古三墳云。伏羲遂人之子也。因風而生。
故風姓。易通卦驗云。遂皇出握機矩表計。寔而其刻曰蒼牙通
靈。謂伏羲也。故云遂人有傳教之臺。伏羲立十二言之教。而魏
淳于俊亦以為伏羲因遂皇之図。以制八卦。則羅泌置遂人于
因提紀中。未知何據。今云。其據を丹壺記れるこ。路史ゟ云、為物をや。黄嚢經云。伏
羲父葬震山下。世言。伏羲無父。其母感跡而生者妄也。則三墳。



以為遂人之子亦誣。依命歴序。反在伏羲後矣。古学之難詣如
是と云へ。是ゟ今の用れな文は省畧して引ゟり。然ゟ
州の産ゟ非ず是も扶桑日域ゟ神眞ゟ為が。暫かしもり出
興して。其蠢民らゟ君師ゟ為て。先師ゟ謂ゟ為取成せ為れ
り。其を抱朴子の古説ゟ。壮牙天隨。女媧地出とあ為壮牙を。
蒼牙ゟも書て。伏羲氏ゟ事ゟ為ると。下ゟ引へ拾遺記の説と
成以て。其大約を知為ゟし。然ゟ孫瑴が言誠ゟ理あり。天隨
も天降と云ふが如く。地出ゟ地煌氏を出。龍門と
云へ為類あり。尚委くも太古傳ゟ論ふゟ見為ゟし。ゟて今ゟ
本文を按ず為ゟ。伏羲遂人ゟ有為ゟ。炎帝神農氏。黄帝軒轅
氏ゟど連称せ為ゟと同例ゟて。其創欠ゟ疵事も。一人ゟわざ



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

て。二氏を為來ル名物ぶり。然もこバ秦漢已來ぢ緯書類。及びそれ鄭玄宋均等ぅ注。よ〳〵白虎通風俗通あど拠始め。伏羲遂人を別氏と為て。或を伏羲の前と云ひ。或を伏羲の後と云ふ説をも。一切ぇ掃除をぼし。況てかれ三墳ぅ。伏羲遂人之子也と云ふ説をも。論ふおも足らぬれむ。ぱて本書歷序ぇ伏羲遂人氏の傳。ぁお種〻ぢ事ぞも記傳けむぇ。其を皆亡失して。僅ぅ此數字ぢ殘れ名を。最惜ぉ事ぁれど。柏皇氏の直次ぇ出ぁ名傳説ぢ殘れぁは。金玉ぉも勝れぁ。余歷序ぢ賜物ぁぇ。然を有れど。是ぇ亦いや遺憾ぉ名事ぅの。然ぅるは盤古三皇の歳數を更ぁぇ。狙神ぅぇ柏皇ぉでぢ歳數を。一せも漏落ぜ傳はをぁぇ。伏



ぇ察ぢ給ぅ。立却りて思ぇバ。上ぇ次民氏没六皇出ぜ有名は。其次ぉ名辰放ぇり。黄帝ぁでの事ぢ名ぇ。遂人を別人ぢらむぉ。此處ぉ出ぜ名由無れど。遂人と称ふも。やがて伏羲氏ぢ異號ぉぜ有りけ名。抑遂人ぜ云ふ號を。諸書ぉ謂ふ如く。始めて鑽燧して火を出し。國民ぉ火食を教ぇる故ぢ稱ぢぇ。然ぁぇ拾遺記ぉ遂人ぉくて。伏羲氏の傳ぇ始変茹腥之食ぜ見え。河圖緯ぢ握矩記ぉ。挺佐輔ぢどぉ伏羲禪干伯牛鑽木作火とあぇ。又かの古三墳ぉ。伏制犧牛。冶金成器。教民炮食ぅ云ぐぜも云ぇり。此を自來ぇ名所有ぜ聞えぇり。庖犧と云ふ號を。犧牲を養ひ。庖廚せ名ぁれど。其異號ぇ燧人氏とも云ぃしぇ。周秦以來訛ぇ

国立国会図書館　タイトル『春秋命歷序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

羲神農黄帝三世の歳數を易歴ありし古説を失ひたるを甚も遺憾ありぬや故是歳數を他書に索むるに列子楊朱篇に太古より今日に至年數固より不可勝紀但伏羲已來三十餘萬歳賢愚好醜成敗是非無不消滅但遷速之間耳を見え編年類に諸書に春秋元命苞抔引て自伏羲至獲麟凡二萬六百二十六年を云ひ易緯誓覧圖に伏羲氏甲寅より至無懐氏五萬七千八百八十二年抔と見えたりは荒唐れうるも古説を聞ゝれど次の二説を例抔聴よ出ある推術をもて誣しる説抔ある故なり斯如き相違あり其を誓覧図に是より求ふる唐人抔従伏羲天元甲寅己來至大唐貞元乙亥積二百七十六万一千二百三十一算と云へる説を附録せる當あるも知るべし伏羲氏の元年を乙亥抔甲辰抔云ふ説も有れど古書多くは天元の初歳甲寅を為るより然れども其甲寅をそき當時より幾甲寅を去れる古昔より甲寅ありをを云ふこそ知るべき便ある故に彼推法をもなを用ひて然荒唐抔る異説の多く出來し物あり抔甚く理に近ない物識ある太西日開闢至伏羲元年甲辰一千七百四十年彼以一樹證之安知此樹何年生一千二百三十年とはよ太西の説をふまえ足抔ど伏羲至舜一千二百三十年を云抔説も見えたり然抔よ玄學の家〻よ傳ふる典故あれば早く古説抔實年數を傳ふるを聞えて宋抔張君房が天聖中に著せる元氣論よ其實數を出せり此書も雲笈七籤中に出ある抔其あらて著せる年を云抔ど雲笈の自序よ王欽若を故相と云へる語あり欽若は天聖三年に卒れる人抔ふまえば此云へる抔以て天聖中抔撰ぬを定べし抔其文に自太無太古至於是世不可備



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

紀。爰従伏義迄于今日。凡四千餘載。其中生死変化。載成人倫。
為君為臣為父為子。興亡損益。進退成敗。前儒志之。後儒承之。
結繩紛紜。不可一時殫論也。況有陰陽。四千餘載古れ其實數形
り。此文上より引多多列子の文も甚だ此を彼眞宗が時の道藏の
採集ぬ余ぜられし玄籍究覧の張君房が其古經より見出
多多年數を宋代天聖年より合せて定ぬし數形り。彼此そも
ら更に此歳數を用ゐし事は正しく元本據有りむこそ云ふも
更れり。然多は天聖をから仁宗と云ひしの年號ぬて。九年續
け多が。其九年は辛未ぬ當れり。故是天聖九辛未年ぬ歳數
子起次根基と為し。諸書より伏義の元年ぬ。甲寅と有ぬより據
至てぬ。おゐ四千年を遡上已算へて。其餘載の甲寅を求む多



了。又三十八年上りて。凡て八四千三十八年ぬして得らば。
張子が謂四多餘載を。即是三十八年形ぬ。宋代仁宗が天聖
一條院代天皇代。長元四年ぬ當り。其年ぬ至りて。八百一年形るなし。然れども
此甲寅八。實ぬを甲曆を作れ多歳ぬして。其在治代初年ぬ
を非ぬ然るを路史ぬ。三墳云。伏義三十易草木而立。立三十
二易草木而河圖出。又二十二易草木而造天書。後一易草木
作甲曆。歳起甲寅。是伏義以甲寅之年合。斯萬載之一遇也。是書人或疑之。是説宜有自來。
ぬを然多言ぬて。庚申代歳ぬ。其取戎代元年形多。路史ぬ引多多此三
墳の文を。今本ぬを二ッ所ぬ出多多が。共ぬ今本ぬを合せ見多ぬ。今
了例代諸説の多うぬ中ぬり。眞文と思はる〳〵限りを据し

国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

取名。伏羲氏。因レ風而生。故風姓。皇策辞曰。我升二君位一。三十二年。日河汎レ時。龍馬負レ図。神開二我心一。始畫二八卦一。自レ上而下。咸安二其居一。図出二後二十二年一。易草木。木枯。月作二六書一。後草木一レ生。易水王。月作二甲曆一。曆起二甲寅一云々。有レ生れて三十二度草木を易て。即位せ給ふ義は見え兒。不審ある事ども。然れども路史は。削レ去りて見るべし。国家啓運之年也。宋太祖が即位の年も庚申なりしを云ふ。其を上件四千三十八年。甲寅作曆より年。二十二年。三十二年凡て二年。は五十五年遡上れば。實ゝ庚申より元年あて。彼天聖九辛未年より。四十九十二年迄なり。四千餘載と有ㇾ限ㇾ難ㇾ知。元気論の説。期せずして此の如く。神答を合。此を以て彼説の。孰か遺存せる物ぞ。事を辨ふべし。倩ゝ天保二年まで八百一年を成れば。四千九十二年也。合せても。四千八百九十二年也。れり。仍て斯の如く太昊氏馭戎より元年。及び作曆より年を知得て後ㇾ。上件柏皇氏の世也。太昊氏の世也。聯絡せば趣を。何ぞ云ふ事を知ㇾ。而も法あり。其を歳の干支符合せむも。太昊以前より紀元節忝より法多きを。真の聯接と非ず。太昊以前の紀元節忝の法と云ふを。天地開闢古氏の元年日。甲子歳。甲寅より始めて八十年ゝて節忝故ㇾ復するを一舎を。称し。其甲寅歳より十九舎を積みて。千五百二十年を一紀とも上元とも云ふ。次ㇾ日。甲子歳甲戌より十九舎。千五百二十年を。地紀とも中元とも云ふ。次ㇾ日。甲子歳甲午より千五百二十年。人紀とも下元とも云ふ。人紀下元終りて。天紀上元ゝ復ㇾ。環の端あるが如し。但此を未ㇾ日月合朔の法を立ㇾ。以来の紀法を。是ぞ少異ありて。十九年を合朔の法を立ㇾ。以来の紀法を。是ぞ少異ありて。十九年を積て一章とし。四章を一蔀とし。二十六年を一蔀とし。二十蔀千五百二十年を一紀と。一紀千五百二十年を一元と為せり。然ども。天地人を以てこゝを一紀を称し。天紀も甲寅より始まり。地紀も甲戌より始まる。人紀を甲午より始まるも古法ゝ異ㇾ。此事あるを第十五條より云ふを合せ考ふ



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

べし。故其法をもて之を正すか。盤古氏の元年。日ふ甲子。歳を甲寅ゟ開闢とり。柏皇氏ゟ末年丁未歳まで。四万一千百五十四年ふまで。此を天地人の紀法。千五百二十年を以て除ふ。都て二十七紀よりて人紀ゟ終ル。ゟ其餘百十四年ゟ始。其初年を甲寅ゟて。其歳首冬至を甲子ゟ始ゟが。是や。て太昊氏ゟ暦を作ル。天紀上元の首歳ゟり。然ゟ此ゟ作暦ゟ時ゟ始ゟて合朔の法を立ゟ所以をもて。人天易余ゟ法を用ゐて。其元を八十年上ゟ歸して。人紀ゟ為ゟり。此ゟ易余の事はしも。今此所ゟ其端緒を云むも。初学の輩れど。容易ゟ悟ゟ得ざき事ゟ非ざまゟ別ゟ著述せる三暦由来記といふ物ゟ精く記しゟ辨ふるを見るべし。然らは其柏皇氏ゟ末年丁未を。太昊氏ゟ世ゟ幾年ゟ當ゟと言ふ。柏皇氏三百歳ゟ冬云ゟゟ。実ゟ戊申ゟ年ゟ己未歳まで。百三十二年ゟ在治ゟて。其翌年庚申歳ゟ。太昊氏天墮せくしかば。君位を避りて相位ゟ居ゟ。ゐて其大造の功績を補助して。太昊氏ゟ隠身とり却りて後ゟ没せ給ゟが。其を下位ゟ退ゐて。百六十八年ゟ當給年ゟり。是を以て炬神以下六氏ゟ中ゟ。柏皇氏ゟ名ゟ。ゟ。太昊氏ゟ後ゟも聞え玉ゟ。斯て其隠没せ給歳を丁未ゟて。駆戎せ給間ゟ百三十二年と合せて三百年ゟ在世ゟるゟが。是ゟて紀元及び節忞の推法みれ密合せる。豈亦愉快ゟら



ずや。盤古氏の一万八千歳。及び天地二皇ゟ一万八千歳を。世界万国ゟわくる在世ゟ歳數ゟもて。此を措ゐて人

国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

皇氏より太昊氏に至る歳數を。竪
興して交代し。彼國を馭免して馭戎せも言ふこと。沒と有爲と
と對せ爲言ふて。皆然ばうりの年數を。其國丹出興して在
り爲が。其本洲ゟ何處ゟ沒せる由ゟ。是をもて隱沒せ
ハ云ふ。ゟ。然も人皇氏三千三百歳と云ふを始爲。諸氏
の年數も。彼處丹出興しある間の年數あて。其出前沒後の
久遠視き年齢を。我等尤人ゟ爲えて知爲き事あ非次ゟし。
偖右ゟ如く。盤古開闢ゟり今年歷を考究し畢りて後ち。
ゟ其ゟり以前の。混沌未分丹して。雞子ゟ如あ天地
推算ふ爲ち。盤古元年ゟ前年を。癸丑丹當爲謂あまで。混沌
の間を万八千歳と有爲も。三百癸丑ゟ間あて。其雞子ゟ如
な物ゟ生出爲る大初年を。即甲寅ゟ運丹當まり。然まで其
甲寅ゟり。天皇元年甲寅ゟ前癸丑まで。三万六千年ゟ間丹

天地成畢王。然くて天地二皇有しあ王是を以て第三條よ。
天地初立有天皇氏を云へ王。斯て其三万六千年あ。天皇
四千年歟る歟。次ち人皇ゟ三千三
爲六世ゟ。千八百五十四年の内。太
十八年を除きて。千六百八十六年と合せて。五萬八千九百
八十六年あて。是伏義元年庚申ゟり前年。己未まで。年數歟
り。然て伏義元年ゟり今日丹至りて。四千八百九十二年歟
まバ。此を前ゟ五万八千九百八十六年丹て。天保二
辛卯ゟ年まで。凡て六万三千八百七十八年歟り。天皇の元
年甲寅ゟ王此年まては。二万七千八百七十八年歟り。第一
條の下丹論ぢる。推法術の歳數ゟも。
何ゟ荒唐妄誕の甚くゟ非ゟや。帝
王世紀ち。太昊庖犧氏風姓也。母曰華胥履大人迹於雷澤而
生庖犧於成紀。蛇身人首。燧人氏沒庖犧代之繼天而王。首德
於木。爲百王先。帝出於震。位在東方。東方主春。象日之明。故曰



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

太昊云々ありを。古は五行大義、初学記、三皇本紀より引ある百王、先々云ふ所を、校合して再引ふある。但し繼天ふり帝、易曰、炮犧氏、王天下也、言炮犧繼天而王、為百王先首、徳始於木、故為帝太昊、作罔罟以田漁、取犧牲、故天下號曰炮犧氏と有ある本ぞ多く説なり。然ども此文は。

履大人迹々云ふり。庖犧代之々云ふ所ぞ二十六字は。旧ゐて訛説ぬ妄誕ある多ゐ。皇甫謐過りて之を用ゐ遂ゐ文飾ふして傳ゐし説ぬり。其は海ぞ。燧人氏没庖犧代之と云ふ事ぬ訛れる由を。上ふ辨へ多き此は措て。雷澤ゐ大人ぬ迹を履て。成紀ゐ生々云ふ説は。山海經ぬ郭注ゐも。河圖云。大迹在雷澤華胥履之而生伏義と有れ々ぞ。此は拾遺記ふ。春皇者庖犧之別號所都之國有華胥之洲神母遊其上有青虹繞神母。久而方滅。即覺有娠。歴十二年而生庖犧長頭脩目。龜齒龍唇。眉有白毫。鬚垂委地。以木徳称王。故曰春皇。位居東方。以含養蠢化。叶于木徳。其明徴照於八區。是謂太昊々有ゐで正説ぬ多。此ぬ拾遺記の文。今ぬ要ある事のみ。甚く約て見多ぞし。其は天皇ふり稱せ多。動ぬ古説な。思ひ合せて所知多ま。但し華胥之洲ゐ。西荒ふ在ふ州ぬ名とし。通鑑外紀ぬ注ふ。今在陝西西安府藍田縣と云へ所ぬ皆非ふり。然多西方ゐ在多地ふらむふ。位居東方とハ云ぞうべなり。木徳風姓ぞ云む物ふ抑ハ。此等ぬ詞どもぬ太古傳ふ委く辨へ多き見ぞし。其は天皇ふり雷澤と云ふ所ぬ事ぬ。山海經海内東篇ゐ。雷澤中有雷



其樂の名を扶桑と云ひ。

神。龍身而人頭。鼓其腹在吳西。淮南子地形訓ニ。雷澤有神。龍身人首。鼓其腹而熙。おゐ見えて。山海經注ニ。雷澤在濟陰城陽縣西北。禹貢作雷夏。周禮作雚維。鄭玄作雷雍。昔舜漁于雷澤。即此地也ゟ見え。ゟ。同書ニ。奚囊橐油ニ云。黄帝遊ニ陰洫ニ有ニ物焉。龍身而人頭。鼓ニ腹而遨遊ス。問ニ常伯ニ。常伯ニ道則見ヤ。ゟ見えゐり。成紀と云ふ地も補史記ニ自注ニ。按ニ天水ニ在成紀縣と云ヲれむ。共ニ彼州内吳國の西辺ニ在ル地名ニ非り。伏羲そし此等ヶ地方ニ出れむ。位居東方ヲ云云傳ふ所ニ非ヌ。假令ば。此ノ生所をば。強ひて用ひむヤ。欲ヤも。此等ヶ地ニては。打任ヤて木德ヤ称し。風姓と称をき本ニ因無れむ。たゞ右ニ。雷澤成紀ゐどヶ説を。用ゐ難くおむ。按ふヲ此妄説は。周易ニ誨ヲて。震卦ヲ東方ニ配せゐゐ。其象物ニ雷有ヲ龍

あゐ。伏羲の東方ニ出ゐゐ古説ヲ誣會し。ゥ説卦傳ニ。帝出ニ乎震ト云ふ文を謬解せゐヲ始ゐり。因ヲ云む。帝出ニ乎震ト云ふ帝は。日の事ヲて。此を日れ東ニ出て西ニ没り。北ヨ隠ゐゐはでを云ふ語ゐゐと。其全文を見て炳焉き事ヲ伏周易ヲ震ニ配せゐ故ヨ。漢儒ら謬りて此。帝を伏羲ヶ事と。ちて。蔡邕が獨斷ゐも。伏羲の東ヲ出ゐりと云ふ事を。帝出于震ト記し。後世次ゝニ其謬を受て。帝王世紀及ビ三皇本紀ゐも。右ニ引ク文の如ク記せゐゐは。麁漏ニ非ゐ事ニ非り。春秋元命苞ニ。周ヶ先祖后稷の母ヶ。扶桑州ヨ至りて。大人の跡ヲ履て。后稷を娠メる故ヲ。周を木德と称せゐ事をも取合せて。其を雷澤の事ヤ為し。其雷神の子ニ非る故ヲ。神ゐ肖て。蛇身人首ヶ形を稟ケりと。人ヶ思ヲ寄べく。作ヲ構ヘし妄誕ノ説ゐこヤ疑ひし。其ヲ列子天瑞篇ヨ。古人の異生の事を云ふ所ゐ。后稷生ヲ



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

巨跡ニ伊尹生ニ手空桑ニ而云ひて。伏義を巨跡ヨリ生ニ
さるもの是故ニ山海経ニ。旧く図の漆ニ多く見るが。其雷神の図
も有りて。実ニ龍躰ニ首ハ人ニ似如し。然らば伏義
伏義そし其形あらむ。豈神人ニしもや云ひや。然らば伏義
の容貌。いふ有りしを云ふ。列子文子を始め種くの異説
有れど。上ニ出せる拾遺記ニ傳ふ。春秋合誠図。孝経援
神契其餘の緯書どもニ。蒼帝之為ニ人。渠肩達掖。山準日角。
龍目珠衡。駮毫翁鼻。望之厳而視之ニ。而長九尺有一寸。ナド有
ル事ニ用ふべし。蒼帝とは。即ち五行の風木の神の事ニて。其
ヲ青帝とも蒼帝とも云ふ。伏義氏ニ。其
桑州ニ出る故ニ。因て蒼帝と称し蒼牙とも称せり。因て
周姫昌を蒼精の君と云ふも。其ニ。先祖を扶桑州ニ出る故ニ
故ニ。此ニ本末をも能く心得て在べし。扨路史ニ
て。生ニ於仇夷。ニ遁甲龍山図ニ云。仇夷山。太昊之治也。即今仇池伏
義之生処也。ト彭城成紀。皆西土。知ニ雷沢之説ニ妄

也。長於起城ニ今秦治成紀縣ニ。と有れど。此は謂ゆる龍山圖ニ。仇夷山。
太昊之治也と有ル。治てふ語ニ。義を知べして。謬れる説ニ
り。抑此治は。せを知る間を云ふ治ニは。少く異ニて。既ニ
引る間山図ニ。五龍治在ニ五方と有ル如く。其神真れ。幽ニ
在治を処を云ふは固ニりて。或は其神霊を崇祀ニ
山なも云ふ語ニ。名山記衆仙記ニ。ナド所見ニ如
くニて。其例いと多く。其仇夷山は。太昊の幽ニ在治を
ル由ニり。然ル此を生処を為たるを。杜撰を云ふべし
総て路史ニ分注を。男華註を有れど。実ニ羅泌が自注ニ
て。其注ニる引書どもを。大抵て其本文ニ。本書
ニて文を解し譬ニて。右の類ニ誣ニる説ニ
も。数ふるニ暇非ず。心を着て辨ふべし。乃て伏義氏ニ。赤

縣州を隠没せ㠯後ち。代りて久しく馭戎せ㚔女媧氏な。其、
妹を有㠯を。婦妹の義あて。是を共ホ扶桑州より出ゐ㠯故
ち。木徳風姓と称せり。然㚔ども此容貌をも。蛇身人首と云へ㚔
説あ㚔を。其妹と云ふを。女弟れ事ホ思ひ成して。伏義と同
形ち説を作れ㚔あて。固ら㠯ら次。後世ホ史類
ホ。同母妹をさ記せ㠯を。笑ふホ堪ぬ事ぞらし。凡て此等
此所よりそれ端緒を論はゞ。有ゆる節ぐ有むと物せ
せ㠯ゐ非ず。其精説は總て太古傳ホ云ふれむ。其傳ホ
就て視るべく。扶桑国考をも合せ見て知㠯ぼらし。

有神人名石羊。蒼色大眉。戴玉理。注云。日月清有次序。故神應和
勝也。駕六龍。出地軸。號皇神農。始立地形。甄度四海。遠近。山川林藪。
所至東西九十萬里。南北八十二萬里。所為如此。其教如神。農植
遠近山川林澤所至。
日皇神農一世甄記地形
樹木。使民粒食。故天下號
此條本書ホ號字ホ上ふも。有神人の三字有れぞ。上文ホ衍
あれば削ふ去ゐ。古徴書ホふる。文曜鉤ホ。女媧以下。至神農七
十二姓。を有㠯所の孫毅説ふ。按譙周古史以為伏義以次有
三姓。始至女媧。女媧之後五十姓至神農。神農至炎帝。一百三
十二姓。是不當身相接。譙周以神農炎帝為別人。非古義也。鄭
玄六藝論云。燧人至伏義一百八十七氏。未知孰是。ぞ有れぞ。
此は皆訛説妄誕ホて。其非いぞ分明ホ事。上ホ條くホ論
ゐ㠯ホ准ふて暁ゐ㚔ぞし。抑加ホ国古代ホ年歴世數を。唯
一部を訂正し。其善を擇



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

△其を孫穀より三墳以伏義為遂人之子矣鄭玄六藝論云遂皇之後歴六紀九十一代至伏義皇甫謐世紀云女媧氏亦風姓伏義之妹也譙周以神農炎帝非一人自神農至炎帝二百三十三姓羅泌路史至以為軒轅之前別有軒轅而有巣之上更有有巣何上古之多茫冥也夫帝王至貴而隠沉習泊猶若此況乎後世一介里巷修名者其孰為表而傳之使垂施不朽哉噫難矣難哉とも云ひ張和仲が千百年眼みも相類せる説あれみて知るべし

ぶて固くこを執を爲断見ぐよ有れむ何れ煩瑣ある事も
れく其是非の定めらるゝ事れるを孫穀のみ非ぢ誰も
其是非を辨ず得られぬ事ぞをて措きあるを甚も云ふり
云無き事ぢり故是をもて己常よ彼国人を自国の書を解
をあり神農を炎帝を稱せ事ぞ多人多く其を近く補史記を始め諸
史ぞ。ぉを別人を為くあるが多な故うて此訛は皇甫謐が帝
王世紀ぞ起れる事を所思うめ羅泌が路史ぞ此譯を受
て禪通紀とをふぞ別ぞ大
庭氏と出して神農を異ある由ぞ述れど非説れり。ぢて神農
ぞ女媧氏没大庭氏王を有ぬ是正説なれぞ上ふ云ふぬぐく
女媧氏を伏義ぢ隠没せる後も久しく在せこを為ぬも實

ぉ八其婦かるが故ぞ。古くは伏義氏の在治ぞ附うて別ぉ
王者ぢ列ぁを立ぴぞこ故ぞ易歴ぁを伏義の次ぉ神農を
出せ爲者あり是ぞ以て桓譚が新論ぞ神農氏絶宓義而王
天下云くをは言ぞり。然れむ春秋運斗樞を始爲も伏義女媧神農を三皇と
記れどあも古傳ぉ盤古傳ぢ未ぞ論
立ぐる説を非あり其由委くは太古傳ぉ盤古傳ぢ未ぞ論
ずる我見よ。然て新論を初学記ぉ引くる我再引くぞ引
ぢて次條ぞ論ふ如く。黄帝神農共ぞ少典氏の子
あて。同母兄弟那爲が上ぞ黄帝を兄ぉ
の父兄を除ぁて。伏義氏ぢ後ぞ承ぁ爲を。如何とをふぉ伏
義氏既ぁ。會易ぢ消長ぢ本ぢき。八卦ぞ作ぞて八節を建分
し。五行ぢ更王を考ぞ定めて。帝王ぢ五運を立し故ぞ。木徳



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

ある伏義の後なり。火徳なる神農の受あるあり。黄帝戊土徳と云ふこれは。普く知る事なれど。是も土徳なる金徳ありて有りしむ故なり。木剋土。金剋木なるどは謂ふまでもなく。世を立ざりしなるは。此時なれ國初草創の時なれて。悠悠たる事成し難きなるべき。深き由緒ありて。然らば其五運と云ふこそ。何なる由来せる事ぞや謂ふ迄もなく。既に論ふ如く。天皇は更なり。太昊も木徳と称せる事は。扶桑神州より出る故なるべし。孔子家語に。昔聞諸老聃曰。天有五行。木火土金水。分時化育以成萬物。其神謂五帝。是即五行之神なりて。彼謂ふ五龍なるが。其所在を。天なりては。五星及び五帝座なり。地なりては。大九州なる五岳是なり。此事は上の第五條なども既に云ふ如くハ天柱五岳考なる云へるを見てくハかり。尚委しく説なる処見るべし。古之王者。易代改號。取法五行。更王相生。亦象其義。是以太皞配木。炎帝配火。黄帝配土。少皞配金。顓頊配水。是五帝なり。五行帝なり。帝王を三皇とし。少皞顓頊帝嚳。黄帝。帝嚳。堯舜を五帝とせり。委くハ太古傳なり。帝嚳を為るなり。後人なり私意なり。辨あるを見るべし。太皞氏其始之木。五行用事。先起於木。木東方。萬物之初。皆出焉。是故王者則之。木を東方なりとせるハ。象物を為ふ説なるなり。扶桑国考なり。既に委く説なる処見るべし。而首以木徳王天下。其次則以所生之行轉相承也と有りて知るべし。太皞伏義氏は。東方風木なる州より出て。其仁慈を施せる故なり。木徳と称せるが。其次なる四氏を。所生之行なるを以て。其徳を称せる由なりて。所生之行なるは。生日なり干を云なり。其を王子年が拾遺記なり。黄帝以戊子之日生故以土徳称王也なり有なるをもて辨ふるなり。戊子を木

書子戊巳と作るを。同音より誤写せる形り。今を已が決断を以て改めを改。其を戊巳といふ日を無きを。古昔生日を以て徳と為ることあれば。相證れるき事ども有るど。今もむら〳〵此一ツを挙ある形り。仍て此拾遺記も傳へ。黄帝を戊子に生れりと有るを是らも前ふ。太昊氏をでふ甲子元暦を作をて。歳月日時を。干支を配せるを由る事なり。但し右を相生五運の大約なるが。猶相克五運と云ふ説あり。其を三暦由來記第十三條よ論へるを見るべし。

炎帝號曰大庭氏傳ニ八世合テ五百二十歳。黄帝一曰帝軒轅傳ニ十世二千五百二十歳。次曰帝宣曰少昊一曰金天氏。則窮桑氏傳ニ八世五百歳。次曰顓頊。則高陽氏傳ニ二十世三百五十歳。次是帝嚳即高辛氏傳ニ十世四百歳。

此條は。易緯稽覧圖を。甲寅伏義氏至無懐氏五萬七千八百八十二年。神農五百四十年。黄帝一千五百二十年。少昊四百三十一年。顓頊五百年。帝嚳三百五十年。堯一百年。舜五十年。禹四百三十一年。殷四百九十六年。周八百六十七年。秦五十年。已上六萬三千一百一十二年と有るに。此年數の伏義より至秦迄五十年はで。残算を。六萬三千六百一十二年と云ふ。四百二十六年足ざるを何ぞや。神農より帝嚳までは年數と相似ぬ形れば。今傍小圏點を施せる。四十六字は。易歴は古説れる由を。此稽覧図を取て。世數歳數を挽入せるさや疑あり。但し神農の五百四十年を。五百二十年とあり。黄帝の一千五百二十年を。

二十五百二十年ヤ有ヌヲ、誤写ヤ見エテ、他書ヌ今ノ本文ヲ引ヲ以ヌヲ。百四十年ヤヲ云ム。千五百二十年ヤアリ。下ヨリ引ク補史記ヌ。百三十年ト有ルモ誤写アリ。サ昊ウ四百年ト有ルヲ。五百歳ヤシ。顓頊ノ五百歳トセルヲ。三百五十歳ト見エレド。其総數ヲ算ヌルニ。ヤハリ五百歳ニ違フコトヲアシ。サテ大庭氏ヤヲ。炎帝神農氏ヨリ別號レタルヌヨリ。本文ノ如ク。前條ヲモ論ズルニ如ク。ヌ傳ヘ世ヲ。五百二十歳ト云ヘルヲ換入ルヌヨリ。神農氏ノ元年ハ。女媧氏ノ隠没セル癸酉ノ翌年甲戌ヌガ。是ヨリ百四十四年ノ在治ヌヲ。丁酉ノ歳ヌ隊去セルヨリ。路史ヲ載セルヲ如クヲメテ。是ヨリ十一年間アリテ。己酉歳ヌ。黄帝ノ即位アリ。然ヲバ神農ノ元年甲戌ヨリ。黄帝ヌデノ間。ヤハリ百五十五年ノヌヌヤ。然ルヨ八

代合五百二十年ヲ云ヘルヲ。誤ヤ。斯テ補史記ヌ。神農納奔水氏之女曰聽訞為妃生帝哀帝克生帝榆罔凡八代。五百三十年。而軒轅氏興矣ヤ記シテ。按神農之後凡八代事。見帝王世紀。及古史考。然古典ニ兵皆前聞君子ノ考。按古書而為此説。豈至今鑿空乎。此紀亦據以為説ヤ自注セリ。此自注ハ畧文ナリ。本書ヌ。帝王代紀ヤ有ルヲ引ヌルモノ。今改メテ引ヌヌアリ。司馬貞ガ見ル古史考。世紀ヤモヌ。神農ノ後ヌ凡八代。五百三十年ヤヲ記セレヤ。右四代ハラデ無年シヌヤ。此自注アテ著明アリ。ソハ譙周皇甫謐ヤモ母。其説ノ八代五百三十年ヲ書ヨ其八代ノ名ヲ索ムレド得ヤ。右四代ノミ有リシ故ヲ。古ト心著ケテ取リヒガ。古ヲ。誕妄ト書シハ此命歴序ノ挽文ヲ。誕妄

史記ヨ取レル処文ヲモ。五百三十年トアリ。二三ノウチ何レカ誤写ナリ。下ニモ出ヅ。路史ノ自注ヲ引用セル所ニ。八世五百四十年トアリ。此ヲモ廿世卅世ナドノ後世ノ史家。多ク五百四十年トイフヲ用ヰル所ヲ。其多年ヲ嘉ビテ。然カク誤レルナリ。是後ニ出来シ史類ノ諸書ニ。世紀ヲ出ヅル所由アリテ。神農ノ後ヲ。帝承。帝臨。帝明。帝直。帝来。帝哀。帝榆罔ヲ云ヘル七世ノ名ヲ出シテ。各ニ其在治ノ歳数ヲ附シ。凡ソ八代。五百有餘年ト云フ数ヲ合セ為ル所ヲ。妄誕ノ極レリ。其ヲ司馬貞ガ見ル所ノ世紀。古史考ナドヲモ。若是ノ八世ノ名ノ有レルヲ。其四世ノ名ヲ畧シテ。神農生帝哀。哀生帝克。克生帝榆罔ト挙テ右ノ自注ヲ下サヌ物ハ。実ヲ司馬貞以後ノ妄説アルガ故ニ。諸書ニモ。其七世ノ名ヲ世紀ニ出ヅトモ。或ハ帝明。帝直。帝来。帝哀。帝榆罔ヲ云ヒ。或ハ帝臨。帝明。帝哀。帝榆罔ヲ云ヒ。或ハ帝承。帝臨。帝明。帝直。帝来。帝哀。帝榆罔ヲ云ヒ。或ハ帝承。帝臨。帝則。帝百。帝来。帝哀。帝榆罔トモ。或ハ帝承。帝臨。帝則。帝百。帝来。帝哀。帝榆罔トモ。各ニ色イロ異カハリテ一定セザレバ。其在治ノ歳数ヲ。各ニ区カクシテ。何レヲ是トハ。定メ得ガタクモ非ザリケリ。然レドモ。八代五百有餘年ノ説ヲ用ヰシハ。古史考。世紀。補史記ヲモ。今ノ換文ニ欺カレシ物カラニテ。神農ヨリ榆罔ニ至ル。唯四代ノ説ゾ正シキ。然ルヲ路史ノ炎帝紀ニ。帝柱。帝慶甲。帝臨。帝承。帝魁。帝明。帝直。帝釐。帝居。帝節。帝克。帝戯。帝器。帝参。帝盧。是ニ榆罔ヲ。凡テ十五代ノ名ヲ挙テ。種々ノ説ヲ作為レドモ。総テ信ラレヌ。其ヲカシタル五十五年ハ正紀ニ合ハズ。強ヒテ代数ヲ多クセムヤウニ見ヘテ。斯テ其自説ヤウニ見ヘレドモ。鑿空闇索セル附会ヒ説ヤナリ。斯テ其自注ノ。古今通系。系炎世在位之歴。帝承六十年。臨八十年。明四十九年。直四十五年。来四十八年。哀四十三年。榆罔五十年。ト云レ

在位れ年數よく諸書み異有ありや既あも云へ爰が如し小司馬史記乃有魁無臨而通鑒外紀神農後為臨魁六十年帝承継之帝承六年諸書不同也紀年不逾比小司馬が史記やは司馬貞が補史記を云ふ還や云こや上より引ある今本と合ず羅泌が外紀も列禦寇が當時乃ち有し諸書不同ありや心得がたし通鑑外紀やを云へ爰を帝王世紀を云へ已然ば上よ有魁無臨事例るが司馬貞が補史記を依れ論ふ如く神農ども只四代あて臨魁承れやを云ふを無理し伐其名どもも出ある本を後人の加増して八代の數り合せあ偽世紀りやは羅泌も心着りし事り夫神農七十世以炎黄之在位観之不下數百千年而余歴紀等類以為八世五百四十年此所以致傳記之紛々且以炎黄為世皆踰百載其子孫無一及於百年又皆上下於四五十間知其難據と云へ爰も皆時世を測至

紀年を推し譬ふ亦事理。麁畧あ亦故非説外至り至。然れど古微書あ按路史曰提紀古之有天下最長也者無神農若也故尸子曰神農七十世有天下豈毎世賢哉牧民易也呂覽亦以其尸子呂覽の文共よ妄誕り先唱ありぞ有り亦然るは國語晋語あ司空季子曰昔少典取於有蟜氏生黄帝炎帝黄帝以姬水成炎帝以姜水成韋昭云姜姬水名也成謂所生長以成功也故黄帝為姬炎帝為姜二帝用師以相濟也濟當為擠擠滅也傳曰黄帝戰於阪泉是也異德之故也や見え賈誼が新書あも黄帝者炎帝之兄也炎帝無道黄帝伐之涿鹿之野而兼其地天下乃治や有亦を先辨ふ必し新書あも炎帝者黄帝之同父一母弟也各有天下之半黄帝行道而炎帝不聽故戰涿鹿之野云くやなり今本や異乱も晋語あ炎帝為姜と云ふ

で文を。黄帝や。炎帝神農氏やは。同父母兄弟乃至由而て。
新書ゟ。黄帝者炎帝之兄也。と云へ共も其意形るが。二帝用師
や云ふり下は。先輩を謂へ共如く。神農の曽孫榆罔が。炎帝
の號を襲て在しや。黄帝や師を用ゐて。黄帝遂ゟ榆罔を擒
せ共義ゟて。新書ゟ。炎帝無道や云ふ以下を同義形り。史記
索隠ゟ。此ノ国語の文を引て。然則炎帝亦少典之子。黄ノ二帝
雖レ相ヒ承ケ帝王ノ代紀ノ中間凡テ隔ツ八帝五百餘年ヲ。而始テ代テ炎帝ヲ
名ノ。豈黄帝經ヲ五百餘年ヲ。而始テ代テ炎帝ヲ為ン天子ニ乎。何ノ其ノ年之長也。
按ニ。素ノ本紀ニ云ク。大業娶テ少典氏ニ而生ム柏翳ヲ。明ク少典ハ是国号。非ス人ノ名ニ
也。黄帝ハ即チ少典氏後代之子孫。而称為スト子ト是也ヤ云へ共も。深ク
思はざ共語ゟり。其は秦ノ本紀ゟ。大業娶ル少典氏ニ。とあるを。炎
黄ゟ父ある少典の未商ゟ。少典ゟ。ある人の女を娶れ乃義ゟあるをや。
注ゟ。伏義生ム少典ヲ。と有ルを古説や聞え。黄帝を炎帝の兄れ
ゟ。其弟ゟる炎帝ゟ。父兄を除却て。女媧氏ゟ次ゟ王位ゟ
居ゟるゟ。前條ゟ論ゟ共由緒みて。其即位を。女媧氏ゟ隠没
せ共癸酉の翌年。甲戌ゟ歳ゟ共が。百四十四年ゟ在治ありて。
丁酉ゟ歳ゟ陟去せ共ゟ。其寿を百六十八歳ゟ乃至と。路史ゟ
載せもむ。女媧氏の百七年ゟ生もてゟり。然て黄帝ゟ榆罔を
伐て即位せ共を。炎帝の陟れるゟ乃至。十一年間ありて。己酉
ゟ歳ゟ共が。百五年ゟ在治ありて。癸巳ゟ歳ゟ陟去せるゟ。其
寿は三百歳ありや。萬姓統譜ゟ載せ共が如し。然れば。女媧
氏ゟ八十六年ゟ生れて。炎帝ゟ二十一歳の兄形り。是を以て司空
季子が言ゟ。黄帝炎帝と云ふ。賈詡が語ゟも。黄帝者炎帝之
兄也や。は云へ乍。然る残軒轅本紀ゟ。黄帝者少典之次子也と



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

云い、其注よ少典生、神農及黄帝と云ひて黄帝を次々せ孫を記れる傳なり。而て黄帝三百歳も事ふ就て。いと古記論あり。其を大戴禮記。五帝德篇ふ。宰我問於孔子曰。昔者予聞諸榮伊言黄帝三百歳請問黄帝者人邪。抑非人邪。何以至於三百年乎。神注云、榮伊、人名也。孔子曰夫黄帝尚矣。先生難言之。上古之事。長者猶不能詳也。太史公曰。百家言黄帝。其文不雅馴薦紳先生難言之。宰我曰。上世之傳。隱微之説。卒業之辨。卒終也。業事也。終事。猶已事也。闇昏忽之意。言荒忽不可明也。非君子之道也。則予之問也固陋矣。孔子曰。黄帝少典之子也。生而民得其利。百年。死而民畏其神。百年。亡而民用其教。百年。故曰三百年。按帝王世紀。黄帝在位百年。而崩。子昌意昇受之。又百年而顓頊受之。於子孫之世稱之。於子之世稱之。於有虞宰予が栄伊ふ聞ある説は古傳あれぞ。

儒子學ぶ宰予らが意あを。異みて。人邪非人邪と問けむを宜ふ。此事ぶがら。孔子ぶ答は臆説ふて。信ふ足らず。古今儒者ぶ是臆説を甘心せざふを。諸の作者のを。此説ぶ従はざふを。一人も有ふじ。如中ふ。葛姓統生茂卿と云ふしが纂せる物ふ。武内宿祢ぢ三百餘歳を疑て。韓國を馭めむ為ぶ。此臆説を置た為ぶらむと云ふも。此臆度ぶ物ふ。おふじ名ぢ人を。設て。神学先生らが。神典ぶる神ぢ事実を釋く趣。もはら是等ぢ説ふ自来して有ぶ為。

ぢて上ふ云ふ如く。炎帝神農氏の陽年丁酉ふ。黄帝元年ぢ己酉ふて。僅ふ十一年ぢ間ぶて。彼榆罔が治ふ。ふ有ぶ。猶是上ぢ帝克帝哀と云ふしが有れぞ。神農の然ばふり長在れりし間ふ。父祖ふ先立てぞ失ふりむ。是ふても神農れ後なも七十世と云へ。尸子ぢ覽あどの説を更ぢり。或を十五世といふ。或を八代と云へれど皆妄ある事を知ぢきぶり。黄



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

帝妙元年を諸書小異説多くれども。亡酉と云ふ説を。軒轅本紀及び廣黄帝記より見えて。其廣黄帝記の末に。唐妙王瓘が言ふ。自黄帝己酉歳。至今大唐廣明二年辛丑歳。計三千四百七十三年矣とあり。此いと正しく記説あり。軒轅本紀を。何人の撰と云ふこや知るべうもなけれど。其全書は。宋眞宗が先天紀妙中ふ載し。王瓘は遥下古昔妙書形多こも。唐書妙藝文志ふ。王瓘が廣軒轅本紀三巻妙目有りて。今其下巻を。廣黄帝記やて傳はる。疑るく。右妙軒轅本紀を廣めし物あり。因ふ晋妙葛洪の抱朴子よ。黄帝妙履歴を云へ所文。大ふ軒轅本紀よ相似れむ。其より以前妙書ある事を疑ふ。其を是廣明二年辛丑歳より。五十七辛丑と。五十三年遡る。是即黄帝妙元年ふて。一己酉上れむ。神農氏妙世よ係り。一

己酉下れむ。其子孫妙世を減ぜ多故ふ。前後子一年も。動かし得られ也。元年妙め。斯て大戴禮を始め諸書ふ。百年妙在治ぜ有れぜ。彼本紀ふ在位百五年とあ所。是正説ふて。其陟ふ年を癸己ふ多が。是より後百九年妙間を。其子帝鴻ぜ。其玄孫帝魁と相代ふ継て。百十一年ふ當多癸未妙歳ふ。少昊金天氏即位せめ。然る筑本文ふ。黄帝傳ふ。十世二千五百二十歳やて有るは。少昊氏より間を云所歳數多が。此をも何ふ事ぞも。故妄説ともふあり。扨て少昊氏を。前漢の歴志を始多諸書ふ。黄帝妙子と有れぜ。実ふ孫ふて。在位八十有四載。落年百有一歳ふ多こぜ。路史ふ改ふ記せ多如くふて。巓頊ふれ次ふ。在位七十八年ふて陟去し。帝嚳ふれ次ふて。在位六



国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用

十三年ありて陟去せ給ふ後ち。其子帝嚳と云ふが継ける。九年めよ廃せられて。其弟なる堯ぞ立ち次ぎ。是元年を丙子とぞ。顓頊以下の歳数。そもそも竹書紀年の據りどころ。此書ばかりぞ古くより紀年ある。帝嚳より上。黄帝よ至る紀年は。一つせも其元年の干支を記さ。竟よりぬ周。隠王ろ至ては。一つせも其元年の干支を漏れあやまり。然るは無し。故是丙子ぞ前年乙亥ぐらゐ上。帝嚳より元年を求むる。

で乙丑ぁて。此間僅ろ七十一年ぁる。城本文よ。傳十世。四百歳と云ふ。帝嚳元年ぞ前年甲子ぐらゐ上。顓頊の元年城求むるで丁未ぁて。此間わづかぁ七十八年ぞぁを。傳二十世三百五十年と云ふ。顓頊元年ぞ前年丙午ぐら望上。少昊ぞ元年を求むれど癸未ぁて。此間僅ろ八十四年ぁる。城傳八世五



百歳と云ふ。是ぞ妄誕ぉ非ぎぉて何ぞ。譬覧圖ぞ。帝嚳ぉ至ぁる年數ぞ。ぁる。是ろ准ろて辨ふるぐらゐ帝嚳ぉでぞ文を引ぁて。皆謂其国氏者也。と云ふぁを。是ぉ似て非ぁる。帝嚳の年數をぞ。強ひて然云ふやぅ數ぞ更ぉり。堯一百年と云ぅぐらゐ秦五十年と云ぅぉでぉ。悉それ在治ぉ年數を云ふぁれど。黄帝。少昊。顓頊。帝嚳ぉ年數ぞ云ふぁる。在治の世數年數ぞ云ふぁる。妄誕ぉ非ぁる。説ぞ類ぁる。計ふぁろ暇ぉ非ぎ。仍て今ぞ因ろ稽覧圖ぞ。堯一百年と云ぅぐらゐ以下ぞ年數ぞ論むろ。堯ぞ丙子ぞ即位ぁて。在治一百年ぁして。乙卯歳ぉ殂し。間三年ぉぁて。己未歳ぉ舜の即位ぁり。在治五十年ぉして。戊申歳ぉ殂し。前漢ぞ歴志ぉ。帝系ぉ引ぁて。堯ぉ即位七十載と云ふ。舜ぉ即位丑十載と云ふぁを。堯の在位ぉ合へど。堯の在位ぉ誤ぁり。舜ぁ間三年ぉぁて。

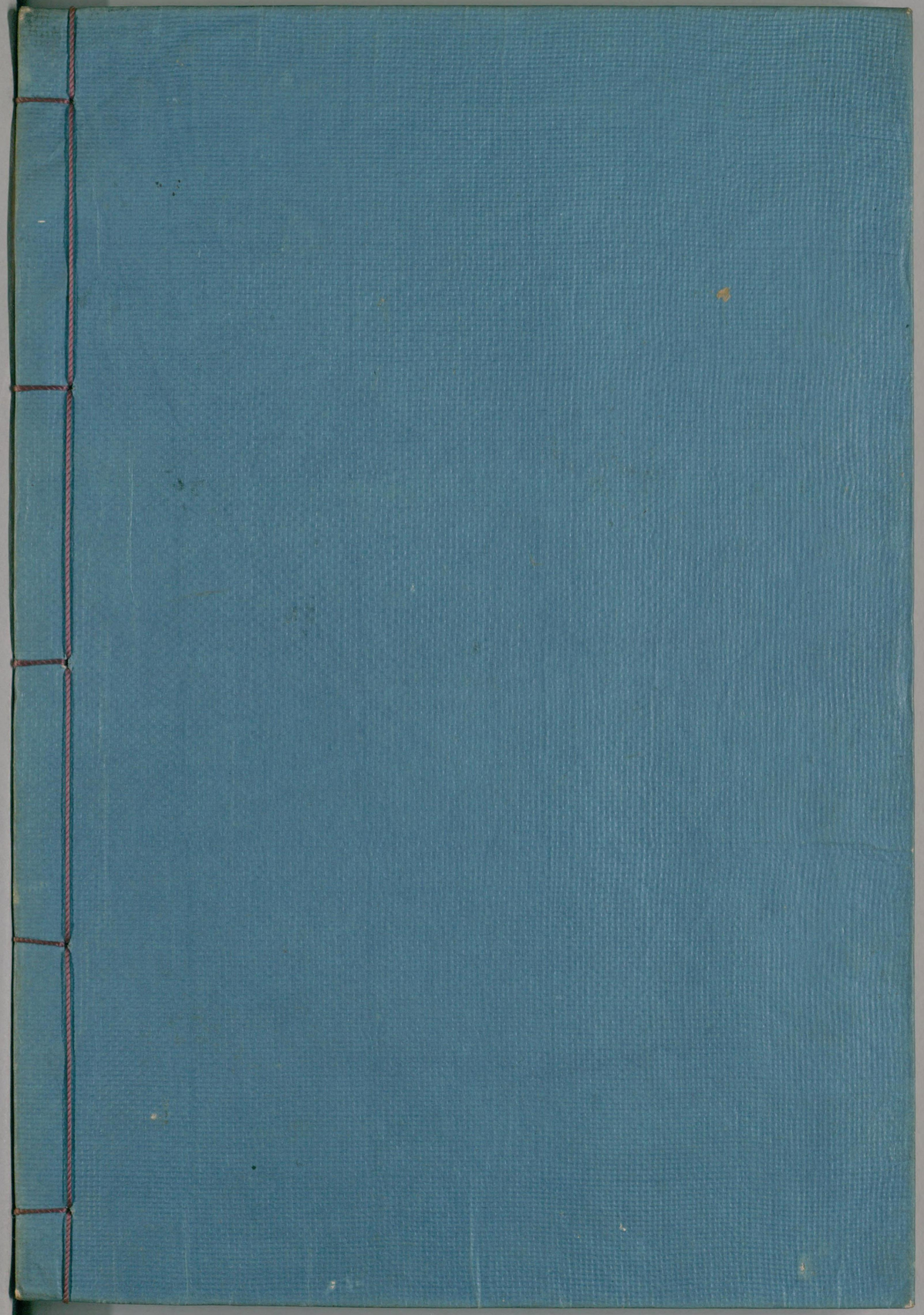
壬子歳ゟ夏禹王即位せり。是より十八代。亿四百三十一年
ゐして桀王が三十一年壬戌歳ゟ。殷湯王ゟ亡さ𠮟。是ゟで
も。竹書紀年と能く合ヲり。但し紀年ハ沈注ゟ。自禹至桀十
七世。用歳四百七十一年ゟ有𠮟も算を謬れ為ゐり。前漢の
歴志ゟ。夏后氏継世十七王。四百三十二歳と有𠮟を合ヲが。
三統上元至伐桀之歳。十四万一千四百八十歳と云𠮟も妄
誕あり。史記を始め他書ゐも相違ども有れど。論ふ足らず。是ら
十代亿五百八年ゐして。紂王受と云𠮟が。五十二年庚寅歳
ゟ。周武王姫發ゟ亡ち𠮟。世ゟ在為編年類の書等ゟ。其滅せ
𠮟年を。己卯ゟ云𠮟は非説ゐり。此五百八年庚寅歳と云ふこ
一ヲ算して知れ為數あり。然るゟは。竹書紀年の年數ゟ。逐
夏以至于受二十九王用歳四百九十六年と有𠮟を。譽覽圖
と合れゟ。本文ゟ従ゐ為算ゟ合文。歴志ゟ。自伐桀
至武王伐紂六百二十九歳と云為劉歆が説を殊ヲ非あり。
総て謂ゆる三代の年數の事も。別ゟ前漢歴志
辨といふ物を著して委く論ふを見るべし。ケて是ら
周世ゟ成ヲて。三十四代亿七百七十五年ゐして。赧王ゟ云
𠮟が。五十九年乙巳歳ゟ。秦ゟ降參らて滅び。ゐる其同年ゟ。
東周恵公と云𠮟が在りしも。七年のち壬子歳ゟ秦ゟ亡さ𠮟。
此七年をも加ふれゞ。七百八十二年ゐ。赧王を竹書紀年
ヲり。斯て其紀年を隠王が十六年ヲり後を。史記の六國表を始め。諸
あり。然る我譽覽圖ヲ。周八百六十七年ヲり。計ヲし年數ゐ
ゐ文王元年ゟり。計ヲし年數ゐ
実ヲは八百六十五年ゐ。其はゐ紂
王が世ゐ係れゐむ。然を計ふ𠮟ヲ非ゟ。
ゐ為王統ゐく。三十餘年がゐど。謂ゆ𠮟戦國七雄互ヲ挑み
爭ふり𠮟が。彼赧王が亡びし乙巳歳ゟり。三十六年ヲち。庚

862
286
124

17746

辰歳まで。韓魏趙楚燕齊の六國。ら。れ彼秦始皇ホ滅され
て。是より秦世ヤ為れ。ば。が其よ。り十五年ヶ歴て。三世子嬰
ヤ云ふ。が乙未歳よ。漢高祖ホ滅されて。是ら。め漢世ヤ草れ
り。晉覽図ホ。秦五十年ヤ云へ。ふ。を其戰国ホ世三十七年
よ。秦一統の十五年を合せて。假ラ然ヤ云へ。ふホ。ちヤ。

国立国会図書館　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『春秋命歴序考 2巻』 請求記号 862-124

ガラス使用